

VIEW21

ビュー21

教育委員会版

臨時増刊号

2017

READING LISTENING 英語4技能育成 特集号 SPEAKING WRITING



調査研究報告

英語コミュニケーション力を 伸ばしている学校の特徴とは？

ベネッセ教育総合研究所 グローバル教育研究室室長

加藤由美子



実践事例

英語4技能を伸ばす授業実践集

- 1 東京都立三鷹中等教育学校
- 2 新潟県 新潟市立白新中学校
- 3 福井県 あわら市金津中学校
- 4 福井県 勝山市立勝山中部中学校
- 5 滋賀県 草津市立松原中学校
- 6 兵庫県 朝来市立生野中学校
- 7 東京都 町田市立鶴間小学校
- 8 福井県 勝山市立村岡小学校

実践事例特別編

英語4技能を効果的に伸ばす GTEC活用術

「英語4技能」育成を求める動き

入試でも、英語4技能を 求める動きが強まる

そもそも現行の学習指導要領では、中学校・高校において英語4技能をバランスよく育成することが求められている。しかし、入試がそれほど変化しなかったこともあり、学校での指導も期待されたほどの大きな変化は見られなかった。

そうした状況を踏まえ、文部科学省は次期学習指導要領で、**中学校における「言語活動の充実」**や**「外国語で授業を行うことを基本とする」**などの方向性を示した。また、2019年度には「全国学力・学習状況調査」において、英語4技能を測る新テストを中学3年生（現中学1年生）対象に悉皆で行う予定だ。

入試制度にも変化が見られる。文部科学省は、20年度から導入予定の「**大学入学共通テスト（仮称）**」において、「読む」「聞く」「話す」「書く」の英語4技能を評価する方針を打ち出した。これにより今後、国立大学や私立大学の個別試験にも、出願要件や試験として英語4技能の導入がより一層広がっていく可能性がある。

大学のみならず、高校入試においても、英語4技能を重視する動きが見られ始めている。例えば、一部の私立高校のみで行われていた外部英語検定試験の活用が、17年度には大阪府、18年度には福井県の公立高校一般入試でも導入されるようになった。このように、英語4技能を求める動きは、入試においてもこれからますます強まりそうだ。

中学校英語の実態と そこから見えてきた課題

次に、中学校英語の指導の実態について、文部科学省が実施した「平成28年度英語力調査（中学3年生）」の結果を見てみよう。

まず、中学生の英語力については、CEFR（*）A1上位以上の割合が、文部科学省が目指す50%以上に対して、「聞くこと」：24・8%、「話すこと」：31・2%、「読むこと」：25・3%、「書くこと」：50・8%となり、対前年比で増減はあるものの、4技能のバランスが悪い結果となった。「書くこと」は、A1上位以上の割合は高いものの、無得点者が15・6%に上ることは大きな課題である（図1）。

また、英語学習に対する意識では、「英語の学習は好きか」という質問に、否定的な回答が45・4%にも上り、対前年比でも2・2ポイント増加した（図2）。

では、授業における言語活動の実施状況はどうだろうか。4技能いずれの活動も対前年比で漸増しており、「読む」「聞く」の肯定率は70%を超えるが、「話す」「書く」は50〜60%台にとどまる（図3）。

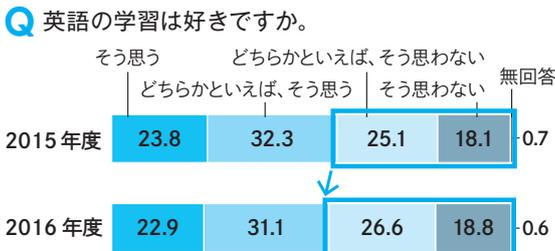
テストスコアとの相関について見ると、それぞれの技能について、テストスコアが高い生徒ほど、技能に関連した活動の実施率が高いことが明らかになってい

図1 中学3年生の英語力 [書くこと]

CEFR	得点	人数	割合
A2	95	0	0.1%
	90	0	
	85	0	
	80	0	
	75	110	
	70	1,115	
A1 上位	65	4,108	50.7%
	60	28,972	
	55	45,208	
	50	90,202	
	45	88,413	
	40	126,993	
A1 下位	35	112,148	49.2%
	30	93,467	
	25	44,480	
	20	31,539	
	15	71,686	
	10	86,749	
	5	0	
	0	152,977	(15.6%)

調査対象の総数は978,198人。平均点は31.3点。

図2 英語学習に対する生徒の意識



* CEFR（セファール）：外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠（Common European Framework of Reference for Languages）。欧米で幅広く導入されつつある。語学のコミュニケーション能力のレベルを示す国際標準規格。レベルはA1、A2（A：基礎）、B1、B2（B：自立）、C1、C2（C：熟達）の6レベルがあり、C2が最も習熟度が高い。各種の英語資格・検定試験がある中で、基準目標として使われることが増えてきている。

2 調査研究報告

英語コミュニケーション力を伸ばしている学校の特徴とは？

ベネッセ教育総合研究所
グローバル教育研究室室長
加藤由美子

5 実践事例

英語4技能を伸ばす授業実践集

- 6 東京都立三鷹中等教育学校
- 8 新潟県 新潟市立白新中学校
- 10 福井県 あわら市^{かなづ}金津中学校
- 12 福井県 勝山市立勝山中部中学校
- 14 滋賀県 草津市立松原中学校
- 16 兵庫県^{あさご}朝来市^{いくの}立生野中学校
- 18 東京都 町田市立鶴間小学校
- 20 福井県 勝山市^{むろこ}立村岡小学校



22 実践事例特別編

英語4技能を効果的に伸ばすGTEC活用術

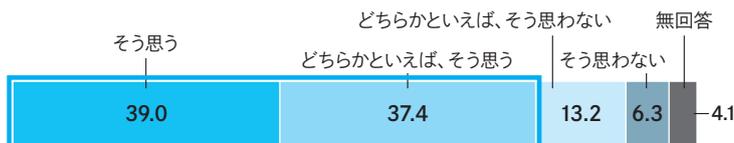
表紙協力 ● 那須塩原市立塩原小中学校
流山市立西初石中学校
印刷製本 ● 株式会社みつ印刷
編集協力 ● (有) ベンダコ
執筆協力 ● 中丸満、二宮良太、長谷川敦

*本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。また、敬称略とさせていただきます。
*本誌記載の記事、写真の無断複写、複製及び転載を禁じます。
©Benesse Corporation 2017

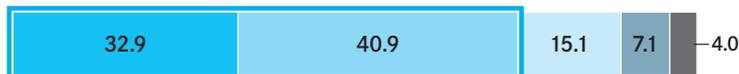
ますます強まる

図3 言語活動に対する生徒の意識

Q 第2学年での英語の授業では、英語を^{読んで}（一文一文ではなく全体の概要や要点をとらえる活動をしていましたか）



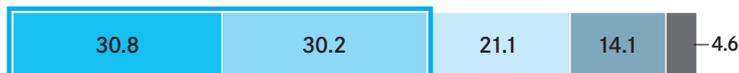
Q 第2学年での英語の授業では、英語を^{聞いて}（一文一文ではなく全体の概要や要点をとらえる活動をしていましたか）



Q 第2学年での英語の授業では、与えられた話題について、（特に準備をすることなく）即興で話す活動をしていましたか。



Q 第2学年での英語の授業では、英語でスピーチやプレゼンテーションをしていたと思いますか。



Q 第2学年での英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりしていましたか。



図1～3出典/文部科学省「平成28年度 英語力調査結果(中学3年生)の速報」

る。また、テストスコアの高い生徒ほど、「英語が好き」の割合も高い。特に「話すこと」「書くこと」については「英語が好き」との相関が強く、「話すこと」のテストスコアが低い生徒は「英語そのものが嫌い」などの回答が多い。

このように、英語指導の4技能化は徐々に進んでいるものの、「話す」「書く」の活動は依然として不十分なところが多く、英語嫌いの生徒も少なからずいること、また、それぞれの技能の活動の実施率とテストスコアとの相関、「話す」「書く」のテストスコアと「英語が好き」との相関が強いことなどが明らかになった。

以上を踏まえ、英語4技能を高めるために英語の授業はどうあるべきか。次のページからそのヒントを探っていこう。

英語コミュニケーション力を伸ばしている学校の特徴とは？

「GTEC for STUDENTS」(P.5参照)のスコアが大きく伸びている高校を、ベネッセ教育総合研究所が調査(下記参照)したところ、いくつかの共通する要素が見えてきた。東京外国語大学の根岸雅史教授の指導の下、調査を行った同研究所グローバル教育研究室の加藤由美子室長が、明らかにした共通要素を解説する。



ベネッセ教育総合研究所
グローバル教育研究室室長
加藤由美子

かとう・ゆみこ

ベルリッツ・シンガポール校学校責任者、ベネッセの英語教育事業カリキュラム開発担当を経て現職。幼児から高校生までの英語教育や指導実践研究を行う。

調査概要

「GTEC for STUDENTS」を学校単位で受検した高校のうち、1年次と3年次のスコア(「話す」を除く3技能のトータルスコア)を比較して伸びが大きかった5つの高校の教員に、英語教育の内容に関するインタビュー調査を2016年7～11月に実施。なお、伸びをみた学校グループ全体の高1→高3の2年間(2013～2015年)のトータルスコアの伸びの平均が71.7点だったのに対して、5校はスコアをいずれも90点以上伸ばしている。

授業の質を高める工夫①

授業は英語で行うことを基本としている

英語コミュニケーション力を伸ばしている学校では、どのようなことに力を入れているのか。そのポイントを探るため、「GTEC for STUDENTS」のスコアを大きく伸ばした複数の高校の教員に、2016年、インタビュー調査を行いました。すると、それらの指導や取り組みに、共通する要素が数多く見いだされました(図1)。調査対象は高校ですが、そのほとんどが言語習得や指導の理論にかなっているものであり、小・中学校での実践にも

生かしていただけるものだと考えます。ここではその概要を紹介します。

まず、授業の質を高める工夫として、どの学校も、授業を英語で行うことを基本としていました。そして、英文を1文ずつ和訳することはせず、4技能を用いた活動を行っていました。授業の多くの時間を、生徒は英語を使う活動に費やすことになりませんが、英語習得にはとても大切なことです。

さらに、活動中の指示に加え、思考を促すような発問も、先生は英語で行っていました。そうすることで、生徒が英語に触れる量は格段に多くなりますし、日本語が使われるたびに思考回路を切り替えて、英語と日本語を

行き来する必要ありません。

ただ、必ずしもオール・イングリッシュとはせず、文法事項の込み入った説明や活動の進め方など、日本語の方が効率よく理解できると判断した場合には、最低限の日本語を使って指導するなど、柔軟に対応されていました。

授業の質を高める工夫②

「Accuracy」より「Fluency」を重視

指導の流れとして、最初は間違いを恐れずに、英語を使おうとする姿勢を育てることを優先して「Fluency(量・流暢さ)」を大切にし、次第に

「Accuracy(正しさ)」に移行していくことも共通していました。間違ってもいいからまずは積極的に話したり書いたりすることが大切だと生徒に理解させた後で、「入試では、言い回しや文法の正確さも求められる」など、「Accuracy」にも目を向けさせる指導をされていたのです。

ある先生は、「Fluency」を大切に指導していると、生徒の方から「Accuracy」を求める時が来る」と話されていました。英語で表現する喜びを感じるようになると、「もっと話したい」「自分の考えを適切に伝えたい」といった欲求が湧き起ります。その時期を捉えて「Accuracy」を指導す

図1 「英語力を伸ばしている学校」における指導や取り組みの共通要素

授業の質を高める工夫	授業は英語で行う	生徒が4技能でたくさんの英語を使う。1文1文の和訳は行わない。
	「Fluency (量・流暢さ)」を経て「Accuracy (正しさ)」へ	「Fluency」から始めてタイミングよく「Accuracy」へと目を向けさせる。
	インプットからアウトプットへ。アウトプットのために目的を持ってインプットに戻る	生徒がインプットとアウトプットを行き来しながら、「言語」と「内容」の両面から、英文の意味理解と解釈・分析したことの表現を繰り返す。
生徒が英語学習に向かう土台づくり	失敗を恐れずに英語を話そうとする積極性の育成	生徒がお互いを認め合い、失敗を恐れずにチャレンジする雰囲気をつくる。
	多様な生徒への配慮	どの生徒も意欲を持ち、無理なく取り組めるようにフォローする。
	生徒がより高い目標や志を持つための働きかけ	年度の最初の授業で学習の目的を伝えるなどの「授業開き」の実施、ルールの設定、学年通信の配布など。
	生徒が学習成果と課題を自ら確認して、学び方を改善するための支援	外部試験実施後の学び直し、成績票返却時での結果数値の捉え方や学習改善の提案。
学校・英語科としての取り組み	「育てたい英語力」をイメージして試行錯誤をする教員の存在とよき同僚性	授業や生徒の学びを変えたい教員の存在とチャレンジ。中堅・若手をサポートするベテラン教員。
	環境変化や外的影響力をテコにする	新教育課程への柔軟な対応。研究指定などの機会の活用。
	教員の自律性を担保しつつ、全体ではぶれない目標・指導・評価のしくみ	CAN-DO リストなどを基に、目標や指導、評価の方針を共有。
	成果指標の活用	英語科の教員全員で GTEC や模試の結果を分析・共有。

*ベネッセ教育総合研究所提供資料と取材を基に編集部で作成。

ると、学習効果は一層高まるでしょう。日本の伝統的な英語の授業では、「Accuracy」重視で、最初から生徒の誤りを教員が細かく指摘することで、英語を使ってみようという生徒の意欲を低下させてしまっているのかもありません。ぜひ「Fluency」重視の指導により、英語を使う積極的な姿勢

を育むことから始めていただきたいと思えます。

授業の質を高める工夫③

インプットとアウトプットを
行き来させて理解を深める

インプットとアウトプットの行き

来を意識的に行う指導も、各校の共通した特徴に挙げられます。まず教科書の内容をインプットしますが、内容理解を深めるためにアウトプットし、教科書を読み返して再びインプットするといったような流れです。

この学習には、「言語」と「内容」の2種類があります。「言語」の学習は単語や文法、表現を学ぶこと、「内容」の学習はレッスンのトピックについて理解し、思考することです。従来の指導は、「言語」の学習を重視する傾向が見られました(P.4図2)が、「内容」をしつかり学習することも重要です。教科書の内容を読み込み、深く考える学習を通して、多面的でクリティカルな思考力も育まれていき、コミュニケーション能力の基盤となるものの育成にもつながります。

最近では、大学入試でも技能としての英語力だけではなく、思考力を問う出題がされるようになってきました。アウトプットするための思考力を育むためには、最初は教科書の内容をそのまま話すりテリングから出発し、徐々に要約したり、自分の意見を述べたりする活動を取り入れたりして、「言語」と「内容」を統合していくような指導を行うことが効果的でしょう。

アウトプットの指導では、小規模な

活動を日常的に行うことが大切です。読んだり聞いたりしたことを基に、ペアやグループで話し合ったり、要約を書いたりする活動を取り入れてみてはいかがでしょうか。そして、年に数回でも、スピーチやディスカッションなどの大きな活動があると、生徒の自信につながっていくと思います。

内容を易しくしすぎないことも重要です。生徒が使える英語のレベルはまだ高くないからと、内容のレベルも低く設定すると、生徒にとって退屈な活動になりかねません。難しくても興味のある内容であれば、「自分の考えを表現したい」といった意欲が高まり、活動にしっかりと取り組むようになるため、英語力の伸長にもつながります。その際には、活動の導入として映像を見せて興味を持たせたり、トピックと関連した資料を用意して内容を深めたりして、生徒の意欲を喚起することが大切になります。

生徒が英語学習に向かう土台づくり

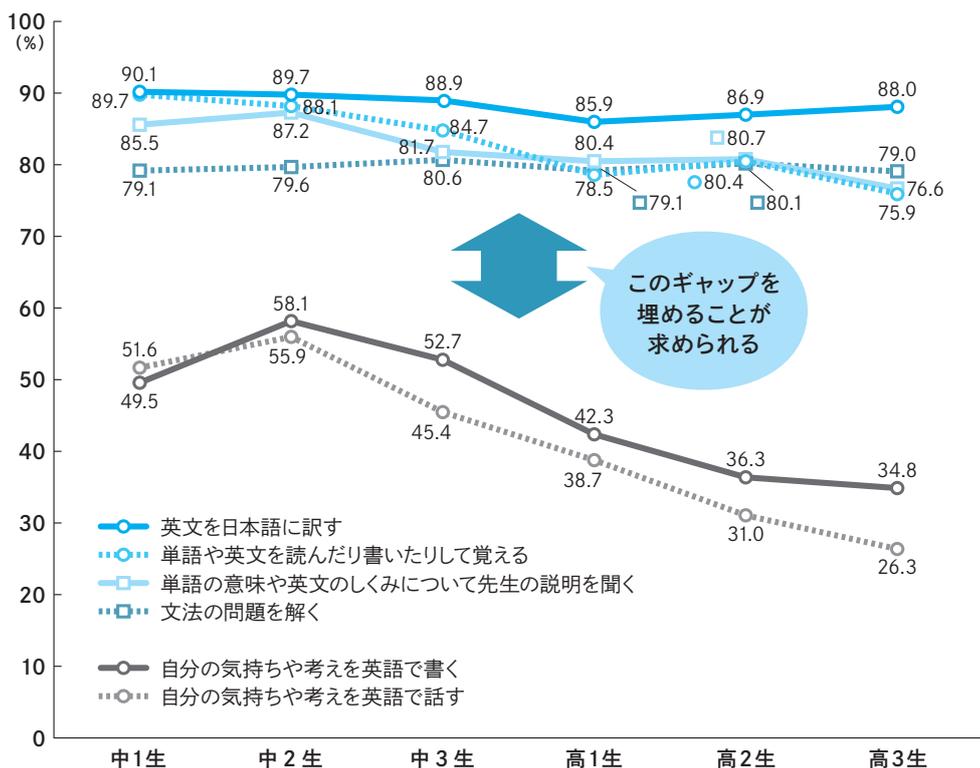
生徒が間違いを恐れずに
英語を話したくなる雰囲気

次に挙げたいのが、生徒が英語学習に向かうための土台づくりです。

生徒が積極的に英語を話したり書

図2 英語の授業で経験したこと

Q 学校の英語の授業の中で、次のようなことをどれくらいしていましたか。



*「よくしている」+「ときどきしている」の%。
 *ベネッセ教育総合研究所「中学生の英語学習に関する実態調査 2014」を基に編集部で作成。全国の中学1年生～高校3年生 6,294名(有効回答数)に調査。

いたりできるようになるためには、互いを認め合い、間違いを恐れずに挑戦できる雰囲気がかかせません。それは、学級づくりなどを通して醸成されていくのですが、英語の授業の中でもできることはあるはず。例えば、ある先生は授業中に常に「Don't

be afraid of making mistakes.」と語りかけて、生徒を勇気づけていました。また、生徒の意欲を高めるためには、学力差に対する支援も大切です。他の研究で分かったことですが、ある高校では、教科書の内容を理解するためのワークシートを、レベルの異なる3種

類用意し、生徒自身に選ばせていました。また、ある中学校では、アウトプットの目標を「見本の中からまねして抜き書きする」から「自分流に書き直す」まで幅を持たせていて、しかもその支援が周りの生徒には分らないよう配慮している先生もいました。

さらに、進路指導などを通して高い目標を持たせることも、学習意欲につながります。「どうせ自分は将来、英語を使わない」と考えている生徒に対しては、たくさんの可能性や選択肢があることを伝えましょう。例えば、国内においても外国人観光客の増加などで、英語を使う機会が増えているといったトピックを話すことで、目標や意欲を持たせやすくなると思います。

学校・英語科としての取り組み 組織的に改革に取り組み 教員が力を発揮しやすい環境を

3つめに挙げたいのは、英語教育改革を推進するための中核的な教員の存在です。具体的には「こんな英語力を育てたい」というイメージを持ち、授業や生徒の学びを変えようと試行錯誤する教員です。教科主任やベテラン教員に限らず、中堅や若手教員が周囲を巻き込み、よき同僚性を発揮しな

から進めた例も多く見られました。最初は一部の教員の活動でも、英語力の向上や生徒の変化などの成果が表れると、「自分も試してみたい」と校内に広がっていく場合が多いようです。ただ、すぐによい変化が表れるものではなく、4～10年という長期間の取り組みで成果を出していました。教員が力を発揮しやすい環境づくりも大切です。組織的に取り組むために、CAN-DOリストなどを基に共通の目標や評価基準を設定した上で、指導方法は個々の教員に任せて独自性を担保するという学校もありました。また、GTECなどを活用し、教員が同じ指標で現状や成果を捉えることも大切にしていました。GTECの結果は、生徒に返却して学習の改善につなげるとともに、組織的な指導改善にも活用できます。ある先生が「テストの結果は、教員の指導の結果である」と語っていたのは、まさにその通りだと思いました。

英語4技能を伸ばす 授業実践集

前ページでは、「GTEC for STUDENTS」のスコアが
高校入学後に大幅に伸びた複数の高校を調査し、
そこから見えてきた、英語4技能を高めるためのポイントを紹介してきた。
ここでは、小・中学校において、2016年度に GTEC のスコアが高かった学校を中心に、
英語4技能を伸ばすための効果的な指導や実践の具体的な事例を見ていこう。

中学校編

- 事例1 東京都立三鷹中等教育学校…………… 6
- 事例2 新潟県 新潟市立白新中学校…………… 8
- 事例3 福井県 あわら市^{かなづ}金津中学校…………… 10
- 事例4 福井県 勝山市立勝山中部中学校…………… 12
- 事例5 滋賀県 草津市立松原中学校…………… 14
- 事例6 兵庫県 ^{あさご}朝来市立^{いくの}生野中学校…………… 16

小学校編

- 事例7 東京都 町田市立鶴間小学校…………… 18
- 事例8 福井県 勝山市立^{むろこ}村岡小学校…………… 20

今回取り上げた事例校について

中学校事例については、2016年度に実施された「GTEC for STUDENTS」において、トータルスコア、または「スピーキング」「ライティング」のスコアが顕著に高かった学校をご紹介します。

年間
約93万人が
受検

技能別に
測定

スコア型の
絶対評価

「GTEC for STUDENTS」の概要紹介

- ◎中高生対象のスコア型英語テスト。年2回（6月・12月）受検可能。2016年度は年間約93万人が受検。
- ◎各技能別にスコアが表される。
- ◎難易度は「コア」（主に中学生対象）、「ベーシック」（主に高校1・2年生対象）、「アドバンス」（主に高校2・3年生対象）の3タイプがあり、どのタイプを受検しても1本の評価軸でスコアを計測できる。

※本文中に登場する「GTEC for STUDENTS」については、各見開きの初出のみ正式名称とし、2回目以降は「GTEC」と略称表記しています。

東京都立 三鷹中等教育学校

大量のインプットをベースに、 4技能をバランスよく伸ばす

東京都立三鷹中等教育学校では、英語でコミュニケーションをするためにはまず語彙力が重要と捉え、インプットの指導に工夫を凝らす。校内発表会や海外の中高生との交流などで日常的に英語を使う場も設け、4技能を総合的に使える力を育てている。



東京都立三鷹中等教育学校プロフィール

© 2010 (平成 22) 年に開校。「思いやりを持った社会的リーダーの育成」を基本理念とする。

校長 藤野泰郎先生

生徒数 946人

学級数 24 学級

電話 0422-46-4181

URL <http://www.mitakachuto-e.metro.tokyo.jp/>

英語力アップの指導ポイント

リスニング

ラジオ英語の聴取や音読筆写を日常的な宿題にする。ALTやJETとのチーム・ティーチングを通して、ネイティブの発音に触れさせる。

スピーキング

全校発表会、留学生と1日中英語のみで活動する校内留学、海外の中学・高校との交流など、日常的に英語を使う場を設ける。

ライティング

インプットを増やして語彙力をつけ、英作文、海外研修の報告書など、まとまった量の英文を書く機会を定期的に設ける。

授業の特色

インプットにも力を入れ、 発信に向けた語彙力をつける

東京都立三鷹中等教育学校は、開校以来、「胸は祖国に置き、眼は世界に注ぐ」という精神の下、国際社会のリーダーとなる人材の育成を目指している。中でも英語教育においては、国際社会でツールとして活用できる英語力を身につけさせるため、中高6年間一貫のカリキュラムを作成し、4技能をバランスよく育てている。

授業は、1年次の2学期から標準2クラス、発展1クラスの習熟度別となる。ALTやJETとのチーム・ティーチングで、ほぼオール・イングリッシュで行われ、ペアワーク、フォニックス、チャンツなど、生徒が主体的に英語を使う活動が中心だ。一方で、インプットも重視しており、単語テストでは、数百題の規模で出題し、合格するまで追試を行うことを徹底している。そして、長期休業時には、単語のほかにも、スピーチなどの原稿作成の宿題を課す。赴任2年目の藤原陽子先生は、そのねらいを次のように説明する。

「英語による発信力の土台となるのは、豊かな語彙力です。それを身につけるためには、苦しくても地道な努力



藤原陽子
ふじわら・ようこ

教務部。英語科。沖縄県の八重山地区の公立中学校で約10年間勤務後、2016年度から現職。

の積み重ねが必要だと、生徒に伝えていきます」

インプットが単なる苦行にならないよう、藤原先生は楽しみながら覚えさせる工夫をする。例えば、文法事項はチャンツを使い、「ウエンいつウエアどこフードあれ、ホワットなにホワイなぜハウどんな」と、手をたたきながらリズムカルに復唱させる。また、ペアワークでは、単語が書かれたカード(写真)を引き、それが答えになる問題を英語で出し合い、時間内に答えられた数を競わせる。「生徒は熱中して取り組むので、ウォームアップに最適です」と、藤原先生は語る。



写真 ウォームアップのペアワークで用いる、曜日や色などの単語が書かれたカード。生徒は、引いたカードの単語が答えになるよう、定型の例文を応用して英文で問題をつくり、出し合う。

4 技能を総合的に使う 全校発表会や海外交流で

授業で身につけた英語力を活用できる場合も、豊富に設けている。まず、定期考査では、ライティングの問題を全体の3割ほど出題し、スピーキングのパフォーマンステストも毎学期行う。例えば、1年次の1学期は自己紹介や友人紹介、2学期は夏休みの体験をテーマとし、3学期は「イングリッ

シュ・プレゼンテーションデー」(後述)に向けたスピーチのクラス予選がテストを兼ねる。

1・2年次の冬・春の長期休業時には、各3日間の「校内留学」を実施する。希望者が参加して、留学生と英語漬けの日々を送り、最終日は英語によるスピーチを行う。

さらに、3学期には、1・4年生(中学1年生・高校1年生)による「イングリッシュ・プレゼンテーションデー」を開催。英語学習の集大成として、

各クラスの代表が、1年生はスピーチ、2年生はスキット、3年生は日本文化のプレゼンテーション、4年生は演劇やパフォーマンスを披露する。

ここでは、「話す」力の向上だけじゃねらいではない。1年生のスピーチでは、1年生全員が冬休みにA4判1枚程度の英文の原稿を書いてきて、教員と何度もやり取りをしながらか英文を推敲し、仕上げる。そして、各クラスで発表し、生徒と教員の評価により代表者を決める。生徒にも評価させるのは、「聞く」ことも意識させるためだ。

「本校では、3・4年次に行う海外研修の報告書を英語で書かせるなど、まとまった量の英文を書く機会を多く設けています。書く力は、大学入試でも重視され、大学での研究論文や企業の資料作成などにおいても求められます。6年間で、英語による発信力をしっかり身につけさせたいと考えています」(藤原先生)

海外の姉妹校などの中高生と交流する機会も多い。ホスト役は4年生以上が中心だが、1・3年生も一緒に授業を受けたり給食を食べたりする中で、英語を使って対話している。

CAN-DOリストを精緻化し、指導と評価の一体化を図る

これらの指導により、生徒にとって英語を使うことへの特別感はなくなった。英語の授業では、質問も英語で行い、海外の中高生を迎える際も積極的に英語で話しかけている。

さらに、成果は数字にも表れており、特に、16年度1年生の躍進が目覚ましい。ベネッセの「学力推移調査」(*1)の英語の結果においては、例年1年次の平均G T Z (*2)はB1〜A3だったが、同学年ではA1へと大幅に上昇した。また、「GTEC for STUDENTS」は、1・2年次で「コア」、3年次で「ベーシック」を受検しているが、16年度1年生の中には上限スコアに達した生徒も少なくなかったという。

今後は、さらなる英語力向上を目指し、指導と評価の一体化を図っていく。

「現在も、6年間の各学年の目標と学習内容を一覧化し(図)、GTECでの目標スコアを示して、英語力を客観的に把握しています。これまでの指導でもかなりの手応えを感じていますが、CAN-DOリストを精緻化し、さらなる指導改善に生かしていきたいと考えています」(藤原先生)

学年	Can-do リスト	学習内容
1	<ul style="list-style-type: none"> アルファベットとスペルの関係を知り、正しい発音を学ぶ。 短い手紙、イラストや写真のついた文、身近なことを表す文を読んで理解することができる。 公共の施設の簡単な表示・掲示を理解することができる。 簡単な自己紹介、文、指示を聞いて、必要な情報を聴き取ることができる。 正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読できる。 自己紹介、他者紹介、簡単な質疑応答の言語活動を行う。 手紙やメール、カードなど、簡単な自己紹介などを、辞書を引きながら書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> be 動詞、一般動詞 命令文 can を用いた文 3人称単数 疑問詞 現在進行形 過去形 未来を表す表現 助動詞 There is 構文 比較 不定詞
2	<ul style="list-style-type: none"> 短くて簡単な物語や興味・関心のある話題に関する文章を読んで理解することができる。 日本語の注や説明がついた簡単な読み物を理解することができる。 ゆっくり話されれば、簡単なアナウンス、興味・関心のある話題、身近な話題、簡単な道案内を聞いて理解することができる。 正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読できる。 身近なことについて、英語で自分の経験や考えを述べたり質問したりすることができる。 手紙や日記、自分の意見や考えについて、辞書を引きながら簡単な文章を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 時制/助動詞 副詞節を導く接続詞 接続詞 that 第3、4、5文型 現在完了 動名詞 受動態 名詞、不定代名詞、前置詞 後置修飾、分詞 関係代名詞 比較表現 間接疑問文
3	<ul style="list-style-type: none"> 日本語を介さずに英語を英語のまま理解できる頭の働かせ方がある程度理解することができる。 日常生活の身近な話題、公共の場でのアナウンス、天気予報等を聞いて、内容を理解することができる。 正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読できる。 身の回りのことや日本文化について、自分の考えをある程度論理的に英語で話すことができる。 自分の意見や経験、感情をある程度まとまった分量の英語で辞書を引きながら書くことができる。 生きた英文法を体系的に整理し、問題演習を行い身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> 完了形 知覚、使役動詞 副詞節 関係代名詞 関係副詞 名詞節 不定詞 分詞、分詞構文 仮定法 強調、否定、倒置 過去完了

* 学校提供資料を基に編集部で作成。

* 1 中高一貫校の中学校向けアセスメント。

* 2 学習到達ゾーンのこと。ベネッセのテストにおける共通の学力評価指標。「S1」～「D3」の15段階ある。

活動中心の「タスク型学習」により、 4技能の深化・定着を図る



新潟市立白新中学校プロフィール

◎ 1947（昭和 22）年開校。教育目標は「知性の高い生徒になる」。教育研究校としての実績が豊富。

校長 濱中力也先生

生徒数 199人

学級数 10 学級（うち特別支援学級 4）

電話 025-266-2136

URL <http://www.hakushin-city-niigata.ed.jp/>

新潟市立白新中学校では、アウトプット活動中心の「タスク型学習」を、各学年ともスピーキングとライティングで年4回行い、学習内容の定着を図っている。英語を話す・書く機会が増えたことで、生徒は多彩な表現方法を身につけるとともに、「英語をもっと使いたい」という意欲が高まっているという。

英語力アップの指導ポイント

4技能すべて

単元で学習した文法・表現を、4技能を用いて繰り返し練習した上で、アウトプット活動を行う「タスク型学習」を実施。

スピーキング

「タスク型学習」だけでなく、普段の授業でもペアワークでの対話や、ALTとの対話を豊富に設けるなど、アウトプットの機会を重視。

ライティング

「タスク型学習」の中で型となる文章を繰り返し書かせることで、文章の構造の理解・定着を図る。

取り組みの特色

学習した文法や表現の練習後に、 アウトプット活動を実施

新潟市立白新中学校では、5年ほど前から、同市が全市立中学校の英語の授業で推進する「タスク型学習」を年間計画に組み込み、実践している。

「タスク型学習」とは、各単元の学習内容の定着を図るため、学習した表現や文法を用いてアウトプット活動を行うプロジェクト型学習だ。タスクに適した文章構造の型や表現を生徒と共有し（学習タスク）、それらを活用してグループやペア、個人で練習（練習タスク）。そして、その型や表現を用いて書く・話す力が身についたかどうかを、定期考査やパフォーマンステストで評価する（評価タスク）。英語科主任の佐藤優子先生はこう語る。

「以前から学習内容を活用させることを意識して授業をしていましたが、基礎的な学習の後にいきなり課題を与えて話させたり書かせたりすることは難しく、生徒によって達成度に差がありました。その点、『タスク型学習』は、身につけさせたい型を何度も練習するので、どの生徒も次第にアウトプットできるようになり、学習内容の定着度も高まりました」

佐藤優子

さとう・ゆうこ
英語科主任。3 学年主任
2016 年度、同校に赴任。



田中英昭

たなか・ひであき
特別活動主任。2 学年担任
2014 年度、同校に赴任。



「タスク型学習」は、各学年とも、スピーキングとライティングで各4回実施。1回のタスクで両方の技能を用いる場合もある。各タスクはCAN-DO リストの評価項目と関連づけ、どの技能の力を育むタスクなのか、全教員に対して明確な設計になっている。

練習を繰り返し、 英文の「型」を身につけさせる

2 年生の 1 学期の「世界に紹介したい日本人」（5 時間分）を例に、「タスク型学習」の進め方を見ていこう。過去形・未来形・接続詞を学んだ後に、ライティングとスピーキングの 2 技能を用いて行うタスクだ。

① 学習タスク 有名歌手の英語の紹介文と、そこに盛り込まれた情報を視覚化したアイディアマップ（日本語）を提示。紹介文に含めるべ

図 「練習タスク」のプリント (例)

練習タスク② Class No Name

グループで相談し
○それぞれの内容を右のアイディアマップに整理しよう。
○まとまりが完成したら、どの順番に書くかを決定しよう。

I think (that) A is for Group ①. (Aはグループ①に入るとしています。)

A 女優 actress B トークショウの司会者 talk show host F 東京出身

アイディアマップ

① < 基礎情報 > < 実績 > ②

③ < 好きな理由 > < もっと知るには > ④

Kuroyanagi Tetsuko (黒柳徹子)

段落を並べる順番 ① ⇒ () ⇒ () ⇒ ()

Opening

Body

Closing

E 1984年 ユニセフの親善大使になった Goodwill Ambassador for UNICEF

G 多くの病しく病気の子どもたちを手助け

J 自伝小説 『涙のトットちゃん』

M 恋あり

I'm going to tell you about be born in ~ : ~で生 be famous for ~ : ~で有 If you are interested in ~ If you want more inform respect ~ : ~を尊敬す When I ~, I feel/ becom I like her/him because ~ 自伝小説 : autobiography

「練習タスク②」のプリント。アイディアマップはグループで作成し、紹介文は個人で書く。紹介文の構成のひな形を「Opening (誰について紹介するか) → Body (基本情報、実績など) → Closing (好きなところ、思い)」と示し、それに沿って何度も練習することで、英文の型を身につけさせる。
*学校提供資料をそのまま掲載。

き内容と構成の型、それらに必要な表現を確認する。

②練習タスク 与えられた有名歌手の情報グループでアイディアマップに整理したり、グループで英文をつくりたりしてから、それを基に個人で英語の紹介文を作成(図)する。次に、個人で人物選び、アイディアマップ作り、紹介文作成をした後、スピーキングのパフォーマンステストにつながるため、ペアワークで説明や質問をし合う。

③評価タスク 定期考査では、提示されたアイディアマップを基に紹介文を書く。評価の観点は構成、内容、言語だ。そして、パフォーマンスステ

普段の授業の工夫

活動の中で文法指導も行う 年間指導計画を立てる

ストでは、提示されたメモを基に A L T と対話をし、評価の観点は、内容、言語、話し方・態度とした。「日本語と英語とでは、論の立て方が異なります。型に沿って何度も書かせて英語のライティングの基礎を習得させることができれば、生徒が自分なりのアレンジを加えることも可能になり、豊かな表現力を身につけられるようになります」(佐藤先生)

普段の授業も活動を中心に行う。例

えば、新出文型は場面の中で提示し、機能や意味、構造を理解させてから、ペアワークなどを通して定着を図る。そのペアワークも、ドリル活動という位置づけで行う場合は、文法に焦点を当てて指導する。また、スピーチのパフォーマンステストの前には、生徒が書いた英文の原稿を、教員が添削。文法的に正しい原稿を完成させた上で暗唱させて、文法の確認にもつなげる。

「活動中心の授業であっても、アウトプットの中に知識の定着という視点を取り込んでおり、高校入試に対応できる学習になっていると考えています」(佐藤先生)

「タスク型学習」には年間約20時間を充て、普段の授業も活動主体へと大幅に変わったが、指導にめりはりをつけることで、学習内容も指導時数も以前と変えずに済んでいる。

「『タスク型学習』は、実際に英語を使いながら表現や文法を学ぶ学習方法です。文法の説明も活動をする中で行うという考えの下、年間計画をしっかりと立てているため、授業で押さえておくべきポイントを教員が把握しています。むしろ、活動型の学習の方が生徒の知識の定着はよく、指導の効率がよくなったと感じています」(佐藤先生)

成果と展望

表現方法が多彩になり、学習意欲も高まる

「タスク型学習」の定着に伴って、生徒のアウトプット力が向上しており、スピーキングやライティングで高い成果が表れている。田中英昭先生は、その手応えを次のように語る。

「英語を話したり書いたりする機会が増えて、多彩な表現方法を身につけたことで、生徒の中に『英語をもっと使いたい』という意欲の高まりを感じています」

テストでの無解答も大幅に減り、「GTEC for STUDENTS」では、導入1年目には14人いたライティングの無解答が、2年目にはゼロになった。今後の課題は、相対的にスコアが低いリスニングの底上げだ。

「リスニングのテストは定期考査でも課していましたが、GTECを受検して生徒のレベルを客観的に把握できました。これまでは、教科書の内容についてのCDの聞き取りやA L T との対話が活動の中心で、様々な英語を聞くという指導まではしていなかった。『タスク型学習』を見直す中で、リスニングもより丁寧に指導していきたいと考えています」(田中先生)

独自教材の英作文演習を 3年間継続し、書く力が飛躍的に向上

2014年度から、英語の指導改革に取り組んでいる、あわら市金津中学校。

英語4技能の力の底上げが図られる中、

特に、独自教材を活用した英作文の指導を3年間継続したことで、書く力が格段に高まっていることが、外部検定試験のスコアにも表れている。



あわら市金津中学校プロフィール

◎ 1962（昭和37）年、3つの中学校統合により現在に至る。2016年度県中学校道徳研究大会授業校。

校長 北川慎司先生
生徒数 454人
学級数 19学級（うち特別支援学級2）
電話 0776-73-0149
URL <http://www.awara-kyouiku.jp/~kin-chu/>

英語力アップの指導ポイント

スピーキング

1年生の最初からフォニックスの指導を徹底。文字と音声のつながりを理解させ、初見の単語でも自力で読めるようにすることで、スピーキングの力につなげる。

ライティング

独自に3学年分の『英作文問題集』を作成し、毎週、家庭学習課題として課す。たくさん書かせることを重視し、「練習すれば書けるようになる」というイメージを持たせて、継続する意欲につなげる。

英作文指導の工夫

フォニックスを徹底し、まず自力で英文を読める力を育む

あわら市金津中学校では、2014

年度の春休みに、英語科の全教員が約1週間かけて話し合い、英語4技能をバランスよく伸ばすための3年間の指導計画を立て、活動や評価の方法を統一した。特に、コミュニケーション活動を積極的に取り入れている。江澤隆輔先生は、その理由をこう語る。

「英語を使う量を増やすだけでなく、英語で自分の考えを伝える喜びを感じてもらおうと、学年が上がるにつれて自己表現活動を増やしました。例えば、3年生では『将来何をしたいか』『何のために勉強するのか』などを考えて話す活動も取り入れています」

そうしたコミュニケーションを支える力を、1年生から系統的に育てることに留意している。入学直後の2か月間は英語4技能の土台として、フォニックスを徹底して行う。

「文字と音のつながりを理解すること、大抵の単語は初見でも正しく発音できるようにします。単語学習が効率的に進み、リスニングやスピーキングの活動を増やすことができました。また、音読がスムーズになったこと



江澤隆輔
えさわ・りゅういち
英語科 生徒指導、「総合的な学習の時間」担当。
（2017年3月時点）

とで、語順などの文法の学習が深まりやすくなり、スピーキング力の向上にもつながりました」（江澤先生）

「練習すれば上達する」というイメージを生徒に持たせる

自分の考えを英語でしっかりと伝える力を育むために、英作文の指導にも注力している。

「毎年、3年生の後期になっても、長文を書けない生徒が目立ちました。英文はすぐに書けるようになるものではないので、低学年から英作文指導を組み込み、生徒には『練習すれば書けるようになる』というイメージを持たせる工夫をしています」（江澤先生）

教材は、学校独自に『英作文問題集』を作成し、家庭学習の課題としている。3〜5ページで1テーマとなっており（図）、まず教科書のトピックに関連した和文英訳問題などに取り組んだ後、テーマに沿って英作文を書き、月曜日に提出。その後、先生の添削を受けて書き直す。添削を待つ間に次のテーマに取り組み、書き直したものと

第3回校内テスト対策テーマ

【金中の先輩の作品を読んでみよう！】

Please tell us about Fukui!

I live in Fukui.
Fukui has a lot of beautiful scenery.
At first, it was very hot.
We can enjoy the hot springs.
A lot of people also visit here.
It is exciting.
Second, it is very beautiful.
I went to the hot springs.
I can't ski.
A lot of people go to the hot springs.
I want to go to the hot springs.
Fukui has many hot springs.
So, I'm proud of Fukui.

2 ページめ

第3回校内テスト対策テーマ

Please tell us about Fukui! (福井県の紹介)

【ドリル：和文英訳問題】

(1) 福井は とても 素晴らしい 場所 (place) です。
① ②

(2) 福井は とても美しい場所 です。

(3) 福井には、たくさんの自然が あります。(＊「～があります」という表現は最初に書こう)

(4) 例えば、福井には 美しい山々(複数)や海があります。

(5) 三国では、夏に海で (in the sea) 泳ぐことができ、花火を見ることもできます。

(6) 勝山では、冬にスキーができます。

(7) 福井には、たくさんの美しい人々がいます。there is (are)を使う

(8) なので、もしあなたが困っていい (in need) は、誰かが(あなたを)助けてくれます。

(9) なので 福井に住んでいる人は とても幸せです。

(10) だから、福井は、住むために最も良い場所です。

1回目
10

2回目
10

3回目
48

4回目
10

5回目
10

「ふくいの紹介」を題材としたテーマでは、1ページめに3つの例文、2ページめに先輩が書いた英作文の紹介があり、3ページめで和文英訳問題に取り組む。そして、4ページめで「練習」として英作文を書いて提出。添削されて戻ってきたら、5ページめで再度、書き直す。
* 学校提供資料をそのまま掲載。

「GTEC for STUDENTS」

16年度からは、3年生で評価の方法も工夫している。生徒が学習の見通しを持てるよう、校内テスト、音読テスト、インタビューテスト、単語テスト、スピーキングコンテストなど、評価の項目を明確にし、すべての実施項目をポイント化。獲得したポイント数を、評定の数値の目安とする。また、生徒にも常に自身のポイント数を把握させ、課題となる項目に一生懸命に取り組むと、着実に成績が伸びることを実感できるようにしている。

「GTEC for STUDENTS」

16年度からは、3年生で評価の方法も工夫している。生徒が学習の見通しを持てるよう、校内テスト、音読テスト、インタビューテスト、単語テスト、スピーキングコンテストなど、評価の項目を明確にし、すべての実施項目をポイント化。獲得したポイント数を、評定の数値の目安とする。また、生徒にも常に自身のポイント数を把握させ、課題となる項目に一生懸命に取り組むと、着実に成績が伸びることを実感できるようにしている。

「全体的に学力が底上げされ、成績下位層が大幅に減りました。今後は、中学校生活の思い出を英語でスピーチするなど、もっと自分の考えを表現して楽しむ活動を取り入れ、4技能のますますの育成を図っていきたいと考えています」(江澤先生)

一緒に翌週の月曜日に提出するというサイクルだ。

「添削では、生徒に自分で考えさせることを重視しつつ、英語が得意な生徒には誤りに気づかせる程度、苦手な生徒には具体的な指導というように、習熟度に応じて対応を変えています」(江澤先生)

『英作文問題集』は、14年度に3年生で始め、16年度までに1・2年生にも導入。英文の書き方や採点方法を詳しく解説するほか、校内テストや県内の公立・私立高校の入試問題も掲載。

すっかり取り組めば、この1冊で確実に英作文を習得できるようにしている。

授業の進め方は教員によって異なるが、校内テストや小テスト、パフォーマンステストの回数・内容は学年で統一し、それに沿って指導するため、指導内容や進度が大きく違ってこない。そのため、英語科の全教員が集まって進捗を確認する会議は、少なくて済むという。

家庭学習の課題が多いことも、同校の英語指導の特徴だ。『英作文問題集』

評価の特色

英語力を適正に評価するため
GTECを評価対象に追加

のほか、平日に1ページ、文法の基礎演習に取り組み『復習ノート』と、単元ごとに筆写と訳読をする『教科書ノート』を課している。

「毎日約1時間、家庭で英語を学習することになりますが、3年生のほぼ全員がしっかりと取り組んでいます」(江澤先生)

成果と展望

全体的に学力が底上げされ、
下位層が大幅に減る

のスコアも評価対象に加えた。

「4技能の測定は校内テストだけでは難しく、技能別に測るGTECではそれぞれの力が明確に表れます。校内テストの得点よりもGTECのスコアが高い生徒もいたため、英語力を適正に評価するために、GTECも評価対象としました」(江澤先生)

3年生が16年度に受検したGTECでは、全般的にスコアが高く、特にライティングは日頃の英作文指導の成果が表れた。また、生徒からも「英語を使う活動が楽しい」「何に力を入れるべきかが、分かりやすくなった」といった声が挙がっており、授業や家庭学習に向かう様子を見ても、積極的に英語学習に取り組む生徒が増えていることが分かる。

福井県 勝山市立勝山中部中学校

ペアワークを多用した活動主体の授業で 聞く・話す力と意欲を伸ばす

2014年度に文部科学省「英語教育強化地域拠点事業」の指定を受けた勝山市立勝山中部中学校は、4技能を用いる活動中心の授業へと転換した。「間違えてもいいから、英語を話して、書こう」という教師の呼びかけに、生徒は積極的な姿勢で活動を楽しむようになったという。



勝山市立勝山中部中学校プロフィール

◎ 1966（昭和41）年開校。2016年に「環境美化教育優良校等表彰」で優秀賞を受賞。

校長 山口政則先生

生徒数 213人

学級数 10学級（うち特別支援学級2）

電話 0779-88-2040

URL <http://katsuyamachubu.mitelog.jp/>

英語力アップの指導ポイント

スピーキング
ライティング

授業の随所にペアワークを取り入れ、自分の考えや感想などを伝える活動を展開。また、自分が話したことを整理して書く活動や、相手の発言を書き取る活動を通して、ライティングの力も伸ばす。

リーディング

講義形式の授業だけでなく、グループによる協働学習を取り入れ、生徒同士で学び合いながら理解を深めていく活動を行う。

授業展開の工夫

4技能をバランスよく使える ペアワークを多用

勝山市立勝山中部中学校は、文部科学省「英語教育強化地域拠点事業」の指定を受け、2014年度から、勝山市立村岡小学校（P.20参照）などとともに小中高一貫の英語教育について研究している。同事業担当の嶋田一仁先生は、当時を次のように振り返る。「それまで本校が行っていた英語の授業は、知識の伝達が中心でしたが、指定を受けて、思い切って活動中心の授業へと転換を図りました」

同じ拠点校の福井県立勝山高校と検討を重ね、まずCAN-DOリストを作成（図）し、育てたい英語力を明確化。その達成に向けて、授業は基本的にオール・イングリッシュとし、生徒が英語4技能をバランスよく使えるような活動を取り入れた。

「生徒が『伝えたい』『知りたい』と思えるよう、各教員が活動を工夫し、手応えのあったものは研究授業などで共有するようにしました。そして何より、生徒に『間違えてもいいから、英語を使おう』と呼びかけ、活動の雰囲気づくりに努めました」（嶋田先生）
どの教員も積極的に取り入れている

教頭
久保真理子
くぼ・まりこ
英語科。2015年度、同校に赴任。

近藤敦子
こんどう・あつこ
英語科主任。1学年担任。人権・福祉教育担当。2013年度、同校に赴任。

嶋田一仁
しまだ・かずひと
英語教育強化地域拠点事業担当。3学年担任。進路指導主任。2012年度、同校に赴任。

るのが、ペアワークだ。例えば、各レッスンの終わりに、教科書の内容について自分の考えを英語で相手に伝え、その後、その内容を書く活動を行う。また、前時の復習では1人が既習事項を用いて話し、もう1人がそれを聞いて書き取る活動を行う。相手の発言を書こうとすると、何度も確認したくなるので、自然と双方のコミュニケーションになっていくという。

また、毎回、授業冒頭には「ペラペラ会話」を行う。これは、単元の新出表現を穴埋めや並べ替えなどの問題にしたプリントを用いて、ペアで問題を出し合う活動だ。英語科主任の近藤敦子先生は、そのねらいをこう語る。

図 学習到達目標

	【卒業時の目標】 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と実用的な英語力を身につけ、勝山市の自然・文化・歴史について紹介することができる。			
	聞くこと	話すこと	読むこと	書くこと
1年	・自分や家族をテーマにした内容など、教科書のリスニング活動や同程度のまとまりのある英文を2回聞いて、全体の概要や内容の要点を適切に聞き取ることができる。	・自分や家族をテーマにした内容について、相づちを打ちながら2往復以上の会話をするができる。 ・自己や家族をテーマにした内容について、しっかり準備をして4文程度でスピーチをすることができる。	・自分や家族をテーマにした内容について、80語～150語程度の英語を読んで、概要や要点をつかむことができる。	・自分や家族をテーマにした内容について、4文以上で、ある程度つながりのある文章を書くことができる。
2年	・学校生活や地域社会をテーマにした内容など、教科書のリスニング活動や同程度のまとまりのある英文を2回聞いて、全体の概要や内容の要点を適切に聞き取ることができる。	・学校生活や地域社会をテーマにした内容について、ペアで30秒間、相づちを打ったり、適切な応答をしたりして会話ができる。 ・学校生活や地域社会などのテーマについて、しっかり準備をして6文程度でスピーチをすることができる。	・学校生活や地域社会をテーマにした内容について、100語～200語程度の英語を読んで、接続詞などに留意しながら概要や要点をつかむことができる。	・学校生活や地域社会をテーマにした内容について、6文以上で、つながりのある文章を書くことができる。
3年	・社会的な話題をテーマにした内容など、教科書のリスニング活動や同程度のまとまりのある英文を2回聞いて、全体の概要や内容の要点を適切に聞き取ることができる。	・社会的な話題をテーマにした内容について、ペアで1分間、お互いの考えを的確に伝え合いながら会話ができる。 ・社会的なテーマについて自分の考えを論理的に、キーワードのメモをもとに8文程度でスピーチをすることができる。	・社会的な話題をテーマにした内容について、120語～250語程度の英語を読んで、有効な表現に留意しながら概要や要点をつかむことができる。	・社会的な話題をテーマにした内容について、8文以上で、自分の考えや気持ちが読み手に正しく伝わるように構成を考えて書くことができる。

*学校提供資料をそのまま掲載。

「正解しないとステッカーがもらえないため、生徒は過去形や冠詞の使い分けなど、文法事項にも意識的に注意するように なります」(近藤先生)

そのほか、朝と帰りのホームルームでは日直が英語で司会をしたり、朝や昼の放送を英語で行い、放送委員にお願いして英語のクイズを出してもらったりなど、全校で協力して、日常的に英語を使う場を設けている。

「課題を把握するだけでなく、生徒のよいところを知ること大切だと考えています。よい結果は生徒に伝えて自信を持たせ、課題は教員が対応を考える材料にしています」(嶋田先生)

16年度の受検結果では、ライティングは好成績だったが、リーディングに課題が見られた。そこで、リーディングの活動として、教科書本文を4分割したプリントを教室の4隅に掲示。4人1組の班のメンバーが4隅に分かれ、各自が他班の生徒と協力してプリントを読み解いた後、班に戻って内容を伝え合い全体を理解する、というグループワークを取り入れている。

「グループで協力して読み解く活動にすることで、より理解が深まるよう

「英語を積極的に使う姿勢は身につけてきたため、今は『自分の考えを相手にきちんと伝えるためには、文法や表現の正確さも大事だ』と働きかけています」(近藤先生)

また、他教科との連携も強化してきましたと、久保真理子教頭は語る。

「自分の意見を伝えられる姿勢を育むためには、他教科でもコミュニケーションの場を充実させることが大切です。学校全体で協力し、活動をますます発展させていきたいと思えます」

「教科書本文に入る前に、新出表現に耳と口で慣れることができるため、本文の理解がスムーズになりました。このプリントから定期考査にも出題するようにしているので、生徒も意欲

的に取り組んでいます」

A L T が教科書に関連したスピーチをし、その内容に関して出された質問にペアで考えて答える「ステッカータイム」もよく行う活動だ。最初は

評価の工夫

GTECの結果を踏まえリーディングにも力を入れる

評価は定期考査のほか、月1回のパフォーマンステストでも行う。A L T から1対1で教科書の内容についてインタビューを受けたり、スピーチをしたり、1年間の思い出を英語のポスターにまとめたりといった内容だ。

さらに、「GTEC for STUDENTS」も受検し、生徒の英語力の把握と教員の指導改善に活用している。

「課題を把握するだけでなく、生徒のよいところを知ること大切だと考えています。よい結果は生徒に伝えて自信を持たせ、課題は教員が対応を考える材料にしています」(嶋田先生)

成果と展望

今後は正確さをしっかりと身につける指導を目指す

活動中心の授業にしてから、生徒には英語を使うことへの抵抗感がなくなり、学力低位層でも「英語が好き」という生徒が多くなったという。

これまでは英語活用への積極的な姿勢を育むことを重視してきたが、次のステップとして、今後は文法などの正確さがしっかり身につく指導を追究していきたいと考えている。

「英語を積極的に使う姿勢は身につけてきたため、今は『自分の考えを相手にきちんと伝えるためには、文法や表現の正確さも大事だ』と働きかけています」(近藤先生)

また、他教科との連携も強化してきましたと、久保真理子教頭は語る。

「自分の意見を伝えられる姿勢を育むためには、他教科でもコミュニケーションの場を充実させることが大切です。学校全体で協力し、活動をますます発展させていきたいと思えます」

1年生から粘り強くアウトプット活動を 継続し、話す・書く力を伸ばす

授業の進め方を固定化し、1年生から継続して

「話す・書く」のアウトプット活動を毎授業行っている草津市立松原中学校。内容よりもたくさん書くことを重視し、英語を使うハードルを下げるように工夫すると、生徒たちの抵抗感がなくなり、話す・書く力が格段に向上したという。



草津市立松原中学校プロフィール

◎ 1947（昭和 22）年開校。琵琶湖の南湖に近く、自然豊かで交通も至便な地に位置する。

校長 杉山泰之先生

生徒数 400 人

学級数 14 学級（うち特別支援学級 2）

電話 077-568-0246

URL <http://www.matsubara-j.sk.ed.jp/>

英語力アップの指導ポイント

リーディング

教科書本文の音読を毎時間実施。文法説明では豊富な例文と活用場面の写真などをセットで見せて、楽しく感覚的に理解度を高める。

スピーキング

新出文法ごとに例文の音読、Q&Aなどのペアワークを行う。1・2年生では班の英語劇、3年生では生徒個々のプレゼンテーションも実施。

ライティング

教科書の内容の続きを考える活動や教科書をまとめるリテリング(*)を、3年間継続。書くことに慣れさせるため、最初は書く量を重視。

授業の進め方

楽しくても、インプットだけでは本物の英語力は身につかない

草津市立松原中学校を2017年

3月に卒業した3年生は、「GTEC for

STUDENTS」のスコアが高く、特に

ライティングがトップレベルだった。

彼らを1年生から指導してきた定光

重直先生は、同校への異動直後から活

動主体の授業を3年間続けた。

「前任校でも面白い授業を心がけて

きましたが、訳読中心のインプットだ

けでは結果につながりませんでした。

そこで、転任を機に、授業改善を図る

ことにしました」（定光先生）

同校には家庭学習習慣が身につい

ていない生徒が少なからずいたこと

から、まずは授業だけで着実に力がつ

き、かつ自ら学びたくなる楽しい授業

を目指した。そこで、毎回の授業の流

れを、文法導入→音読→Q&A活動→

アウトプットという形に固定化。次に、

生徒の活動時間をできるだけ確保す

るため、学習内容と教科書本文の和訳

をプリントにして配布し、先生の板書

と生徒がノートに書き写す時間をな

くして、プリントとICTによる説明

と生徒の活動を繰り返した。

例えば、文法導入では、先生が自作



定光重直
さだみつ・しげなお

1 学年担任。英語科担当。小中連携加配。「どこで学ぶかではなく、誰から学ぶかが大切と捉え指導する」

のスライドを約3分間見せて解説。不

定詞であれば、「I went to America to

study English」などの例文を留学中の

写真などとともに5〜6例見せて、先

生が発音。これで文法のパターンを頭

の中に定着させた後、20〜25分かけて、

ペアで例文を徹底的に音読させる。こ

の時、定光先生は、生徒の声の様子か

らインプットがうまく行っているか

を確認。その後、「Tom studies hard to

」の後を考えてペアで言い合うQ&

A活動を行い、最後にそれを書くアウ

トプット活動を行う。

「教員の説明だけでは生徒の集中力

は続きませんし、英語は『習うより慣

れる』です。写真を見せることで文と

活用場面が結びつき、多様なパターン

を見せることで、生徒は感覚的に用法

をつかんでいきます」（定光先生）

ライティング指導の工夫

初めはまねでも

とにかく書かせて褒める

アウトプット活動で最も力を入れ

* リテリング (Retelling) とは、インプットしたストーリーを再構築してアウトプットする活動のこと。

図1 「ボキャブラリーシート」(抜粋)

Program7(p62~69)												
Program7-1												
1	～を願う										wish	*
2	～し終える										finish	*
3	いつか、そのうち										some day	*
4	～を直す										fix	*
5	環境										(the/an) environm	*
6	リーダー、指導者										a leader	*
7	地球										the earth	*
8	一部										part	*
9	thinkの過去形										thought	*
10	生活様式										a lifestyle	*
11	植物										a plant	*
12	後で、後に										later	*
13	信念										a belief	*

1 レッスン分の全単語を1枚のプリントにまとめ、毎回の授業冒頭の帯活動として、ペアで確認し合う。できなかった単語はチェックさせ、家庭学習につなげる。各単語の重要度は、初回に先生が「絶対習得したい」から「見て分かればよい」まで口頭で説明。生徒は必要に応じて印をつけている。また、可算名詞にはすべて「a/an」をつけて練習させることで、生徒が感覚的に可算・不可算を学べるようにしている。
*学校提供資料をそのまま掲載。

図2 1年生のライティング用資料(抜粋)

P.60~61 Program6-1 名前: _____

由紀は夏休みにイギリスへホームステイに来ました。ホストファミリーのジュディが友だちといっしょにロンドンを案内します。

Yuki: Wow! London is a wonderful city.

Judy: Yes. We have a lot of interesting places. Look! That's Matt.

Yuki: Hi, Matt. Judy always talks about you.

Judy: Matt is a Sherlock Holmes fan. He knows a lot about Sherlock Holmes.

Matt: Let's go to Baker Street by tube.

① _____

② _____

活動1: ペアで読み合い、読めない単語、つまんだ単語にチェックを入れよう。

活動2: ペアでジェスチャーをつけて読みあおう。

活動3: 下線部①、②に文を付け加えよう。ただし一文につき、3語以上の単語を使用すること。

1年生のライティング指導では、教科書の内容の続きを自分で考えて書く活動から始めた。英作文に慣れていくとともに、教科書の内容にもより真剣に取り組むようになり、生徒は豊かな想像力を発揮するようになったという。
*学校提供資料をそのまま掲載。

たのは、ライティング指導だ。前任校での経験から、日頃から自分の考えを書くことに慣れておく必要があると考えたからだ。

1年生の1学期にフォニックスや歌などで楽しく英語に慣れさせ、文法をいくつか指導した後、2学期に「教科書の内容の続きを書く」活動を始めた(図2)。最初、生徒は戸惑っていたが、先生は「自由に書いていいよ。面白かったらOK」と声をかけ、机間指導をしながら、少しでも書いていたら「面白いね」と褒めるなどして、取り組むハードルを下げるようにした。「クラスに1~2人は面白いことを書く生徒がいるので、その場で読み上

げたり、コピーして配ったりして、最初は、誰かをまねした内容でも、とにかく褒めました。それでも、書けない生徒が多く、くじけそうになりましたが、粘り強く続けました(定光先生)

2か月ほど我慢して続けるうちに、生徒も慣れ、発想豊かになり、アイデアがたくさん出るようになっていった。3学期になると「これを英語ではどう書くの?」と、未習事項について表現方法を質問するまでになった。「1年生の最後に、グループで教科書の内容を基に台本を作って英語劇を行いました。どのグループも独創的で、みんな堂々と演じていました。この指導でよいのだという手応えを

ようやく得られました(定光先生)

2年生以降も、少しずつ改善しながら同様の活動を続けるとともに、英語の4コママンガ制作、「日本文化」のプレゼンテーションなど、多彩なアウトプット活動を取り入れていった。

評価では、定期考査のほかに、学期に1回、パフォーマンステストを実施。ライティングでは、1年生は1単語につき1点とするなど「とにかくたくさん書く」、2年生は「教科書本文をまとめ、自分の感想を加える」、3年生は「自分なりの意見を理由とともに述べる」という観点で評価した。特に2・3年生では、リテリングにより、生徒が教科書本文をきちんと読み取るう

成果と展望

「英語の授業が楽しい」が9割、「プレゼンが楽しい」が7割

定光先生は、基本的に宿題を課さないが、隔週で小テストを行い、定期考査では授業内容を必ず盛り込むなど、家庭学習に結びつくよう工夫した。

また、3年生の1月には高校入試対策としてプリント学習などを始めたが、生徒はすんなりと取り組むことができ、英語表現を繰り返し身につけていけば、受験テクニクは後からでも大丈夫だと思ったという。

3年生最後のアンケートでは、「英語の授業が楽しかった」が約93%にも上り、「楽しかったこと」では「プレゼン」が約67%に上るなど、英語力とともに意欲の高まりも見られた。

「ただ、GTICではリスニングのスコアが伸びず、授業であまり時間をかけていない結果が表れました。GTICは教員の指導力が試されるテストで、授業改善に生かされます。今年の1年生ではまずフォニックスを強化し、発音をより意識した音読活動をした」と考えています(定光先生)

小中と系統性のある活動中心の授業で 英語学習への意欲と4技能を伸ばす



朝来市立生野中学校プロフィール

◎ 1947（昭和22）年開校。朝来市教育委員会から研究指定を受けた、キャリア教育にも力を入れる。
校長 丸山雅清先生
生徒数 80人
学級数 4学級（うち特別支援学級1）
電話 079-679-3063
URL <http://www.asago-city.ed.jp/ikuno-jhs/>

2014年度から文部科学省「英語教育強化地域拠点事業」の指定を受けた朝来市立生野中学校は、市内の小・中・高と連携し、12年間を見通した指導に注力する。キャリア教育とも連動させて、コミュニケーションへの積極的な姿勢を育み、生徒の英語4技能の力を大きく伸ばしている。

英語力アップの指導ポイント

リスニング	1年次の1年間、授業の帯活動でフォニックスを行い、音声とつづりの法則を理解させ、初めて耳にする英語でも聞き取る力をつける。
スピーキング	授業ではペアワークなどで話す場面を増やし、学期に1回のパフォーマンステストでは、事前に評価基準を示して自学に結びつける。
ライティング	授業ではペアワークで相手の発言を書き取る活動を繰り返す。定期考査では、自分の考えや経験などを書く問題を出題する。

授業の進め方

小学校と系統性のある指導で 学習意欲や英語力を伸ばす

朝来市立生野中学校は、2014年度から文部科学省「英語教育強化地域拠点事業」の指定を受け、市内の小学校3校、中学校1校、兵庫県立生野高校とともに、小中高一貫の英語教育を研究している。当初から各校の担当者が集まる会議を月1回実施。12年間のCANIDORリストや年間指導計画を作成し、学校間で授業公開を頻繁に行い、指導の統一性・系統性を図っている。英語科の藤本美千代先生はこう語る。

「担当者会議や授業公開で教員間の情報交換が密になることで、小学校で積み上げた学びをよく把握した上で指導できるようになりました。中学校では、小学校で高まった英語学習への意欲や英語力を、さらに伸ばす指導心がけています」

授業は、生徒が英語に触れる機会を増やすため、基本的に英語で行う。1年次でも、教員の発話のうち6〜7割が英語だと、藤本先生は言う。

「英語で授業を行うと、英語の苦手な生徒がさらに英語嫌いになるのではないかと躊躇（ちゅうちゆ）していましたが、他校の授業公開や校外研修で、簡単な英語



藤本美千代
ふじもと みちよ
英語科。同校に赴任して8年目。2016年度から但馬地区教科等指導員。



丸山雅清
まるやま まさきよ
校長
生野中学校の教頭などを経て、2016年度から現職。

を用いてジェスチャーもつければ、生徒は理解できると実感しました。また、日本人教員が英語を話す姿は、生徒のロールモデルにもなると思います」

指示が分からない生徒には、理解できた生徒に翻訳してもらおうようにしている。これはキャリア教育の観点からも重要だと、丸山雅清校長は語る。

「学び合いは、生徒相互の学びを深められるだけでなく、友だちを助けたという自己有用感にもつながります。本校では普段から『協力することが大事』と生徒に語りかけていますが、英語の授業でも、汎用的な力を育む指導を意識しています」

毎回の授業でインプットと アウトプットを繰り返す

授業の内容は、現在はウォームアップ（主に前時の復習）↓フォニックス

(1年次のみ) ↓教科書に沿った活動という流れだ。フォニックスは、小学校で英語の音声に慣れ親しんだことを踏まえ、音声とつづりの法則を学ばせて、英語を聞き取る力を高めるために取り入れた。また、ネイティブの発音を繰り返し聞くことで、話すことにも意欲的になったという。

「生徒はネイティブの発音に憧れるよう、2年生へのアンケートでは『英語らしい発音を身につけたい』の肯定率が90%以上でした」(藤本先生)

教科書に沿った活動は、ペアワークが中心だ。例えば文法指導では、身近な内容を例文にして生徒に用法を感覚的につかませてから、単語を変えた例文をいくつか示す。こうして十分にインプットした上で、生徒にその文法を用いた文を書かせ、ペアでその英文を言い合って、相手の発言を書き取る。「言語は生活で使うものですから、例文も生徒がよく知っている内容にして、生徒が理解し、応用しやすいようにしています」(藤本先生)

また、年に数回、プレゼンテーションなどの大きな活動を行う際には、最初に活動の目的と手法を伝える。目的意識をしっかりと持たせることで、生徒は自ら考えて取り組むようになり、教員の期待以上の成果を出すという。

評価の工夫

テストの方法と評価基準を事前に示し、自学を促す

定期考査の内容も見直し、リスニングではフォニックスで扱った内容の問題を、ライティングでは自分の考えや経験などを書く問題を出題し、リーディングでは初見の課題文も入れる。

「校外研修で『初見で意味が分からなくても、英文を根気強く読むことがつく』と聞き、定期考査で出すようにしました。授業で扱った英文を出す場合は、別の単語に置き換えるようにしています」(藤本先生)

スピーキングの評価は、学期に1回

パフォーマンステストの評価シート

Class () No () Name ()

自己評価シート

1. 英文をしっかりと読むことができた。 (A) B C
2. 質問に答えることができた。 A (B) C
3. 表情やジェスチャーも意識してできた。 A B (C)
4. 大きな声で話せた。 A (B) C
5. 分からない時は聞き返すなど、答えようと努力することができた。 (A) B C

6. よくできたこと・がんばったこと

7. あまりできなかったこと

8. 思ったこと・感じたこと

★先生たちからの評価

一話しかた・態度
発音・表情など
英文

◎GOOD POINTS(良かった点)
・文章を読む
・質問をよくする

◎Let's try next time!
・They are
いてください!

項目	評価基準	得点
◎発音 発音・アイコンタクト 態度	◎アイコンタクトを取りながら、英語で大きな声で話すことができた。 ◎質問に対して、答えようと努力ができた。 ◎聞き返す等	A(2) B(1) C(0) A(3) B(2) C(1)
◎話し方 発音・流暢さ	◎英語らしい発音で流暢に話すことができた。 ◎英文を正しい発音で読むことができた。 ◎質問に対して、正しい文章で答えることができた。 4点(全ての質問に、早く正しい文章で答えることができた。)	A(3) B(2) C(1)
◎書画材料の活用	2点(質問の質問に、早く正しい文章で答えることができた。もしくは、早く答えることができたが、単語だけだった。) 1点(答えるのに時間がかり、単語だけで答えた。)	A(4) B(2) C(1)
◎言語材料の活用	◎活用したり、つなぎ言葉をつかえた。	A(2) B(1) C(0)
総合判定		A B C

A...10点~14点
B...5点~9点
C...0点~4点

意欲・関心・態度 = 4/5
表現 = 6/9

パフォーマンステストは全学年で実施。1年生2学期のパフォーマンステストでは、写真を見ながらALTの質問に答える問題を3問、生徒自身に関する質問を2問出題した。テスト後、生徒は「自己評価シート」の表面に自己評価を記入して提出。教員とALTは、「よかった点」「頑張っていた点」にコメントを書き、裏面に評価を記入して、生徒にシートを返却する。

*学校提供資料をそのまま掲載。

のパフォーマンステストで行う。ALTと生徒が1対1で対話し、その録画を見ながら英語科教員2人とALTで評価する。生徒には、事前に出題形式と評価基準を伝えている(図)。

「ALTと2人で話すことを楽しみに練習してくるようで、どの生徒も目を見て話し、相づちを打ち、沈黙もありません。全員の評価には時間がかかりますが、意欲向上のためにも必要なテストと捉えています」(藤本先生)

スピーキングの評価で重視しているのは、単語だけで答えず、文章で答えることだ。この観点は、英語科だけでなく、学校全体でも重視している。

「大学入試では英語で論理立てて書

く、話す力が求められていると聞きましたが、それは社会でも必要となる力であり、日本語でできなければ、英語でもできません。全教科で育むべき力として、文章で話す指導を全教員が意識して行っています」(丸山校長)

成果と展望

自分の考えを書ける力を伸ばしプレゼン力を高めたい

生徒へのアンケートでは「英語が好き」という割合が90%を超え、4技能の力も伸びている。16年度に受検した「GTEC for STUDENTS」の成績は、全国でも上位で、1年生のライティングの無回答者はゼロだった。

「相手の考えをまとめて書く力はついてきましたが、話題に応じて自分の考えを書く力には、課題が見られます。本事業における中学校段階での目標は『英語でプレゼンテーションができる生徒』です。英語力とともに、広い視野で物事を見る目を育むことも大切であり、他教科と連携した指導がより重要になると考えています」(藤本先生)

事業指定から4年目となり、小学校での指導も年々拡充し、入学者の英語力も毎年変化しているため、中学校の指導も毎年見直し、改善を進めていく。

東京都 町田市立鶴間小学校

学年に応じた活動で4技能の土台となる「英語の引き出し」を増やす



町田市立鶴間小学校プロフィール

◎ 1976 (昭和 51) 年開校。2016 年に 40 周年を迎えた。「自ら考え努力する子ども」の育成を重点目標に掲げる。
 校長 工藤 成先生
 児童数 589 人
 学級数 19 学級
 電話 042-796-1951
 URL <http://www.machida-ky.ed.jp/e-tsuruma/>

「聞く」「読む」「話す」「書く」の言語活動を行うためには、「知っている言葉」や「使える言葉」が豊富にあることが大切になると考え、町田市立鶴間小学校では、1年次からたくさんの英語に触れさせることで、子どもの「英語の引き出し」を増やす指導を行っている。

英語力アップの指導ポイント

リスニング	たくさんの英語を耳にする機会を設けるため、1年次から原則として英語で授業を行う。
スピーキング	子どもの知的好奇心に働きかけるテーマや質問を設定し、進んで英語を使って答えたくなる、話したくなる授業を心がける。
ライティング	まずは英語を読むことに慣れ親しみ、次に授業で出てきた単語をノートに書き写す。(固有名詞から始めて、少しずつフォニックスへ)

小学校英語への考え方

「知っている言葉」や「使える言葉」を増やす

東京都町田市では、2018年度から、全市立小学校で教科「英語」の先行実施を進める予定だ。それに伴い、16年度から英語教育推進リーダーに任命された町田市立鶴間小学校の牧田莉加先生は、先行実施に向けた指導計画の作成や、授業法・教材の開発などに取り組み、市内の各校と共有を図っている。牧田先生は、小学校英語の一番の目的は「子どもたちの英語の引き出しを増やすこと」にあると語る。

「人は生まれた時から周りの人にくさん語りかけられることで、『聞いたことがある言葉』を少しずつ増やしていきます。そして、その言葉の量がある閾値に達すると、『聞いたことがある言葉』が『知っている言葉』になります。さらに『知っている言葉』を使いたくなる場面が出てきた時、子どもは言葉が発し、それが『使える言葉』になっていきます。小学校での英語学習も、それと同じだと考えています」

その際、担任の役割が非常に重要になると、牧田先生は言う。小学校の担任はほかの授業でも子どもたちと接しているため、一人ひとりの状況や興



牧田莉加
 まきた・りか
 主任教諭。2016年度から英語教育推進リーダー。

味・関心をよく分かっている。担任が適切なトピックを扱い、発問することによって、子どもの好奇心を揺さぶり、英語活動への意欲を引き出ししていくことが可能になるからだ。

授業の進め方

子どもたちが楽しみながら英語を使う場面を設定

同校では16年度まで、1〜4年次は年間6時間、5・6年次は35時間を英語活動に充ててきた。17年度からは、子どもの「英語の引き出し」を増やすという考えの下、1・2年次は年間12時間、3・4年次は35時間、5・6年次は70時間に拡充している。

カリキュラムは、学年が上がっても同じトピックを何度も取り上げ、繰り返し学習できるようにした(図)。例えば、「あいさつ」では、1・2年次は「Hello」「See you」といったごく簡単な表現とし、3・4年次になると「Nice to meet you」を加える。そして、5・6年次では、あいさつに続いて、

図 2017年度 英語活動の授業時数と扱うトピック

1年生 12時間／担任6時間、ALT 6時間

- あいさつ
- 色と数(1~7)
- くだもの
- 色とくだもの
- 動物
- 色と動物
- 体の部位
- 体の部位と数
- スポーツ
- スポーツと色
- 動作

2年生 12時間／担任6時間、ALT 6時間

- あいさつ
- 食べ物
- 数
- 色と数(1~10)
- 形
- 色と形
- 動作
- 文房具
- 数と文房具
- 動物
- 動物と家族

3年生 35時間(週1時間)／担任19時間、ALT16時間

- あいさつ
- 数(1~20)
- 色と形
- アルファベット
- 教科と曜日
- 好きなもの(動物・食べ物・スポーツ)
- クイズ(動物・食べ物・スポーツ)
- ランチメニュー

4年生 35時間(週1時間)／担任19時間、ALT16時間

- アルファベット
- 誕生日
- できること
- 道案内
- 国名
- オリンピック(スポーツ・国名)
- 動作と時間
- 職業

5年生 70時間(週2時間)／担任49時間、ALT21時間

- 感情表現
- 数と単位
- アルファベット
- 観光案内
- 好きなもの(日本の食べ物・アニメ)
- オリジナルメニュー紹介
- 時間割

6年生 70時間(週2時間)／担任49時間、ALT21時間

- アルファベット
- 季節・行事
- 1日の生活
- 国名
- 将来の夢
- 観光案内(日本のおみやげ)
- 文化・スポーツ

「あいさつ」や「動作」など、同じトピックを何度も扱うが、少しずつ表現方法を加えたり、内容に変化をつけたりし、スパイラルにレベルアップできるようにしている。*学校提供資料を基に編集部で作成。

好きな食べ物や動物などの自己紹介を加えるというように、学年が上がるにつれて徐々に目標表現を加えていく。このように、繰り返しスパイラルに触れさせることによって、「聞いたことがある言葉」が「知っている言葉」に変化し、「使える言葉」に成長していく。それが大きなねらいである。

「授業は、1年次から原則として英語で行っています。英語の引き出しを増やすためには、できるだけたくさん英語のシャワーを子どもたちに浴びせることが大切だと考えているからです。日本語を使うのは、英語では子どもの混乱を招きそうな部分のみにとどめています」(牧田先生)

また、牧田先生は、発達段階に合わ

せて、子どもが思わず英語を使いたくなるような工夫も数多く行っている。例えば、中学年くらいまでの子どもは絵本の読み聞かせに好反応を示すため、英語の授業でも英語の絵本の読み聞かせをして、その物語の続きを予想させると、子どもたちは知っている英語を使って一生懸命答えようとする。そして、高学年になると、知的な刺激があるものを求めるようになるため、社会科や理科などの他教科で学んだ知識を使いながら、英語学習を行う「クリル(CLIL)」(*1)の手法を授業に取り入れている。例えば、5年生の授業では、4年次に社会科で学習した東京都の地理に関する知識を基に、写真を見せて「Where



写真 5年生の授業では、4年次の社会科で学んだ東京都の地理の知識を生かした活動を実施。教員が提示した駅周辺の写真を見て、グループでその駅がある市区を考えて書き、発表する。

成果と展望

「英語で表現したい」「伝えたい」という思いを育みたい

同校では、英語の教科化に備え、5・6年次の授業ではリーディングやライティングにも取り組んでいる。「まだローマ字の定着が十分でない

is this」と問いかけ、駅名や市区町村名を英語で書かせて、発表させるといった活動を行った(写真)。

「既にある知識を活用して、少し考えさせるような問題を出すと、子どもたちはクイズ感覚で夢中になって答えを考えます。子どもたちが好奇心を働かせ、楽しみながら英語を使い、学びを深められるような工夫をしています」(牧田先生)

子どももいるので、ライティングといても、自分で単語や文章を考えて書くのではなく、まずは自分や先生、友だちの名前、地名などの固有名詞を書くことから始めます。また、読むことと連動して取り組み、音と文字を結びつけていくことを目指しています。あくまでも、英語の読み書きに慣れ親しませることが目的です」(牧田先生)

牧田先生が最も避けたいと考えているのは、英語を教え込みすぎることによって、小学生段階で英語が嫌いになってしまうことだ。

「大切にしているのは、『英語を使って表現したい、伝えたい』という気持ちを育むことです。小学校段階では、文法を正確に用いて話すことや書くことよりも、間違いを恐れず、英語で表現することを好きになってもらいたいと思っています」(牧田先生)

16年度には、6年生が「GTEC Junior」(*2)を受検したが、結果の帳票が具体的かつ前向きな内容であったため、子どもたちは、今の自分の到達度を知るとともに、「次はここを目指そう」と意欲を向上させていたという。「これからも、さらに活動を工夫して、『英語の引き出し』をたくさん持つ子どもを育てていきたいと思っています」(牧田先生)

*1 Content and Language Integrated Learning の略。

*2 小学校の外国語活動で育んできた英語力の4技能を、タブレットを用いて測定するテスト。

英語を使いたくなる場面を工夫し、「書く」も含めて英語への意欲を高める



勝山市立村岡小学校プロフィール

◎ 1873（明治6）年開校。英語のほか、ユネスコスクール、NIE実践推進校としても研究を進めている。
 校長 竹内敦子先生
 児童数 212人
 学級数 10学級（うち特別支援学級2）
 電話 0779-88-0025
 URL <http://muroko-es.mitelog.jp/top/>

勝山市立村岡小学校は、文部科学省「英語教育強化地域拠点事業」の指定を受け、2014年度から3・4年生では外国語活動、5・6年生では教科「英語科」を実践。

子どもたちが英語で「話したい」「聞きたい」と思える場面設定にこだわり、「書く」活動も含めて楽しみながら意欲が高められるよう、指導を工夫している。

英語力アップの指導ポイント

リスニング スピーキング

子どもたちが意欲的に話したり聞いたりできるよう、英語を使いたくなる場面にこだわった授業づくりをする。インタビューテストは、楽しいと感じて、次への意欲に結びつくような内容とする。

ライティング

話す・聞く活動を通して文字への関心の高まりが見られたら、その意欲を大切に、アルファベットの書き写しなどを取り入れ、まずは書くことに慣れ親しませる。

授業づくりの工夫

必然性のある場面設定など 授業づくりの6項目を設定

勝山市立村岡小学校では、2014年度から、文部科学省「英語教育強化地域拠点事業」の指定を受け、勝山中部中学校（P.12参照）等と小中高一貫の英語教育について研究している。

3・4年生では「外国語活動」（年間35時間）、5・6年生では教科「英語科」（同70時間）としたが、同校の外国語活動はそれまで学習指導要領に準拠した内容だったため、当初、教員に戸惑いが見られた。そこで、1年目は同市に以前から配属されていた外国語支援員（*）が中心となって授業を進め、加配の専科教員の支援も受けながら指導方法や授業づくりを学び、2年目から担任中心で授業を行うようにした。

同校が授業づくりで大切にしているのは、次の6項目だ。

- ① 必然性のある活動
- ② 児童が「話したい」「聞きたい」と思う状況の設定
- ③ 児童の背景知識を活性化させる
- ④ 自己関与度の高い内容を扱う
- ⑤ 児童の思考を働かせる活動
- ⑥ メッセージのやり取りを大切にしたい活動



校長 竹内敦子
 たけうち・あつこ
 専門は算数・数学科。同校の教頭を経て、2015年度から現職。



玉木由紀
 たまき・ゆき
 研究主任。4学年担任。勝山市教育委員会指導主事などを経て、現職。専門は国語科。



西出有衣
 にしで・ゆい
 5学年担任。専門は国語科。4年生外国語活動「What's His?」公開授業実施。



木下智士
 きした・さとし
 6学年担任。専門は算数・数学科。5年生英語科「夢の町を作ろう」福井を紹介しよう」公開授業実施。

竹内敦子校長は、この6項目を掲げたねらいを次のように説明する。

「これらほどの教科の授業においても大切な要素であり、①～⑥を踏まえた活動を通して、子どもが自分の考えを表出し合う学びが生まれ、深い学びにつながります。とりわけ重視しているのは②で、場面設定がしっかりしていれば、結果的にあとの5項目に合致した授業になると考えています」

例えば、4年生の授業でクイズ大会

* 勝山市では日本人の外国語支援員を2人雇用し、加配の英語科の専科教員1人とともに、市内の3つの中学校区を学期ごとにローテーションで訪問している。外国語支援員のうち、1人は英語科の教員免許を持つ人物で、もう1人は海外経験が豊富で英語に堪能な人物。

図1 5年生の年間指導計画 (抜粋)

月	単元名	タイトル/活動内容	主な表現・語彙
1	Lesson1	Do you have "a"?	
2		アルファベットクイズを作る⑧	
3		*Hi, friends! Plus アルファベットバズル 大文字	Hello, I'm (name). My you spell it? S-A-K?
4		自分の名前や好きな物、欲しいものを含めて簡単な自己紹介をする。(名刺交換をする)	Do you have "a"? Yes
5		*31~100までの数・小文字がし・*Hi, friends! Plus	アルファベット小文字
6		アルファベットの小文字とその読みを一覧させる	数字: one~thirty, forty, penguins, pandas, eley
7		*世界にいろいろな文字を知る。	
8			
9	Lesson2	When is your birthday? 行事・誕生日⑦	
10		*12ヶ月/日付の言い方	月の名前: January, February, August, September, October
11		*ベースデイカードを作成し届けるために、誕生日や好きな物・欲しいものを尋ねたり答えたりする。	spring, summer, fall, winter, third, ...thirty-first
12		*誕生日カードを作成する。	表現: When is your birthday?
13		*世界には様々な行事があることを知る。	What do you want for your welcome. Happy birthday
14			
15		What time is it? 今、何時? ④ →HF2, L6から切り離し	time, 数字:40, 50, 6
16		*時刻の言い方を知る。	国: Australia, Kenya,
17		*一日の生活の中の自分が気に入っている時間を伝え合う。	表現: What time is it?
18		*時刻を尋ねたり答えたりする。(世界の時刻)	
19		1学期のテスト	
20			
21		夢の町を作ろう⑤	
22		*建物や施設の英語での言い方を知る。	convenience store, am hospital, clothing store
23		*自分だけの町を作る。	my dream town. I ha
24		*自分の夢の町を紹介し合う。	
25			
26			

*学校提供資料をそのまま掲載。

図2 5年生3学期のペーパーテスト

3学期の力だめし

2. 次の会話を見て、①各都市の時間を書きましょう。また、②各都市に当てはまる絵を下から選びその記号を書きましょう。

3. 下のアルファベットの小文字を大文字に画して書きましょう。

a b c d e f g h i j k l m

n o p q r s t u v w x y z

4. 自分の名前をローマ字で書きましょう。

ペーパーテストでは、聞き取り問題やアルファベットを書く問題などを出題する。書く問題では4線線上にアルファベットを書かせる(大文字→小文字、小文字→大文字の変換や穴埋めなど)が、評価対象とはせず、今後の指導で活用している。

*学校提供資料をそのまま掲載。

「市全体では、高校までの英語教育を通して、勝山市の魅力は英語でPRできる人材の育成を目標としています。小学校の英語教育では、その土台として、英語を使うことが楽しいという気持ちを育てることに重点を置き、中学校以降の英語学習への意欲につなげたいと考えています」(竹内校長)

「英語を使いたい」という気持ちが高める指導により、授業で子どもは積極的に発言し、笑顔も多く見られる。活動を通して、いろいろな人とコミュニケーションできることを楽しんで、どの学年も80%前後の子どもが「英語の学習が好き」と答えている。

「英語を使いたい」という気持ちが高める指導により、授業で子どもは積極的に発言し、笑顔も多く見られる。活動を通して、いろいろな人とコミュニケーションできることを楽しんで、どの学年も80%前後の子どもが「英語の学習が好き」と答えている。

高校卒業時の目標を念頭に、小学校ではその土台を築く

成果と展望

「英語を使いたい」という気持ちが高める指導により、授業で子どもは積極的に発言し、笑顔も多く見られる。活動を通して、いろいろな人とコミュニケーションできることを楽しんで、どの学年も80%前後の子どもが「英語の学習が好き」と答えている。

観光客に福井県を紹介する活動を行うこととし、5年生では、そのために必要な表現を学び、分かりやすい英語の紹介文を考えて、紹介する練習をグループで行った。子どもたちは意欲的に取り組んでいたという。

また、6年次の修学旅行先で外国人観光客に福井県を紹介する活動を行うこととし、5年生では、そのために必要な表現を学び、分かりやすい英語の紹介文を考えて、紹介する練習をグループで行った。子どもたちは意欲的に取り組んでいたという。

「クラスメートのことはよく知っているため、子どもは自己紹介の必然性を感じません。そこで、必然性のある活動とするため、あえてよく知らない下級生を自己紹介の相手としました」

「クラスメートのことはよく知っているため、子どもは自己紹介の必然性を感じません。そこで、必然性のある活動とするため、あえてよく知らない下級生を自己紹介の相手としました」

通知票での評価は、中学年はコメントで、高学年は4観点(コミュニケーションの関心・意欲・態度、外国語表現の能力、外国語理解の能力、言語や文化に関する気づき)別に3段階で記載している。さらに、高学年では、イ

「話す・聞く活動を重ねていくと、子どもの文字への関心も高まります。その意欲を尊重して、その場面で出てきた単語や文章を書き写すなどして慣れ親しませるようにしています」

次への意欲を高めることを意識したテストの出題

評価の工夫

「話す・聞く活動を重ねていくと、子どもの文字への関心も高まります。その意欲を尊重して、その場面で出てきた単語や文章を書き写すなどして慣れ親しませるようにしています」

「ペーパーテストはほぼ全員が満点を取れるよう、授業内容をそのまま出題しています。インタビュートテストは3段階評価ですが、何か話せればBとし、子どもが『英語を話すことが楽しい』と次の活動への意欲を高めることに主眼を置いています」(玉木先生)

教師用帳票を活用して
指導改善につなげる

元々、高校向けに始まった「GTEEC for STUDENTS」だが、近年は中学校でも採用が急速に広がっている。そこで、このコーナーでは、GTEECを指導改善や生徒の学力向上に結びつけるために、どのように活用すればよいか、テスト開発者お勧めの活用法や学校事例を基に考えていきたい。

まずは、GTEECの受検後に受け取る教師用帳票・個人成績票の活用法を紹介する。

GTEECの教師用帳票と個人成績票の特徴は、何といっても技能別に詳しく結果が表されていることだ。採点や指導が難しいライティングについても、スコアの高低が具体的な答案とともに確認できるため、今後の指導に生かしやすい。これらの結果を分析することで、自校の課題が技能別に浮き彫りになり、今後の指導に役立てることができる。

活用術

1

教師用帳票で指導の成果を検証し、課題を発見して、今後の指導に生かす



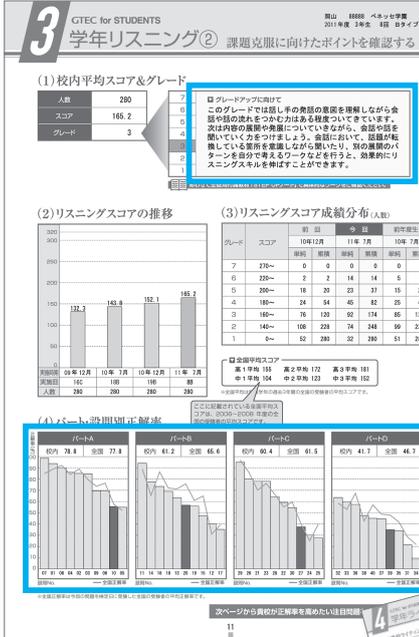
ステップ1

まず、学年全体の成績の傾向をつかむ

教師用帳票では、まず学年全体の結果と技能バランスに注目。技能ごとに結果が表されるので、これまでの指導でどの技能に課題があるのか確認ができる。

▶教師用帳票(学年の概況)

▼教師用帳票(リスニング)



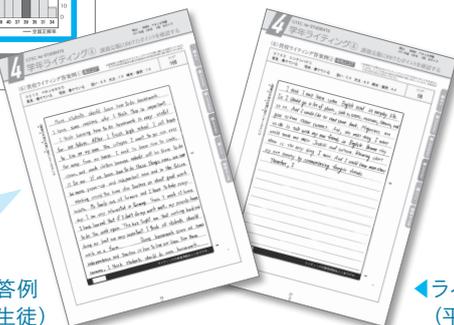
ステップ2

技能別の分析で、強化すべき指導ポイントを確認

「技能別グレードアップメッセージ」では各技能を伸ばすための効果的な活動内容が分かり、「パート・設問別正解率」では受検者のつまづきポイントを確認できる。また、ライティングについては、受検者の答案の比較もできるので、ライティングの強化ポイントも確認できる。

ライティングでは、スコアの高い生徒の答案と、平均的なスコアの生徒の答案を比較して見ることができる。

▶ライティング解答例(スコアの高い生徒)



◀ライティング解答例(平均的なスコアの生徒)

課題だけでなく、生徒のよいところも伝える

GTECのもう一つの特徴は、生徒に対する次への意欲を高めるための仕掛けや付属学習教材が充実していることだ。

例えば、高得点を上げた生徒や前回から伸びた生徒の技能別のランキングは、生徒を褒め、励ます材料に活用できる。また、『STEP UP ノート』などの付属学習教材は、生徒の英語力アップに効果的だ。生徒に渡すだけでなく、できれば、課題として取り組むページを具体的に提示するなどして、確実に取り組ませるようにしたい。それが、次の受検での好結果をもたらしたり、やる気を高めることにもつながる。

このように、結果に一喜一憂するのではなく、教師用帳票や付属学習教材を効果的に活用することで、到達目標の改善、授業の改善、評価方法の改善というPDCAサイクルを確立して、先生方の指導改善や生徒の学力向上につなげていきたい。

次ページからは、GTECを指導改善に生かし、生徒の学力向上につなげるためのポイントを、長期にわたってGTECを採用している中高一貫校や高校の事例を基に紹介していこう。

活用術 2

褒めポイントを見つけて次への学習意欲を高め、付属学習教材を活用して英語力アップにつなげる

7 GTEC for STUDENTS 生徒ピックアップ① 今回頑張った生徒を確認する

(1) 技能別トップ20 ※同一科目内順位に同じ上位の生徒を掲載しています。 前日: 18年11月 18日

順位	氏名	スコア	偏差値	順位	氏名	スコア	偏差値
1	0100	622	100	41	0100	247	100
2	0100	620	100	42	0100	246	100
3	0100	600	100	43	0100	235	100
4	0100	598	100	44	0100	231	100
5	0100	595	100	45	0100	229	100
6	0100	577	100	46	0104	208	100
7	0100	566	100	47	0100	200	100
8	0100	560	100	48	0100	200	100
9	0100	552	100	49	0100	190	100
10	0100	536	100	50	0100	187	100
11	0100	530	100	51	0100	186	100
12	0100	525	100	52	0100	181	100
13	0100	520	100	53	0100	180	100
14	0100	514	100	54	0104	169	100
15	0100	509	100	55	0100	166	100
16	0100	508	100	56	0100	165	100
17	0100	506	100	57	0100	164	100
18	0100	502	100	58	0100	163	100
19	0100	497	100	59	0100	160	100
20	0100	488	100	60	0100	155	100

順位	氏名	スコア	偏差値	順位	氏名	スコア	偏差値
1	0100	200	25	29	0100	160	100
2	0100	199	25	30	0100	159	100
3	0100	198	25	31	0100	158	100
4	0100	197	25	32	0100	157	100
5	0100	196	25	33	0100	156	100
6	0100	195	25	34	0100	155	100
7	0100	194	25	35	0100	154	100
8	0100	193	25	36	0100	153	100
9	0100	192	25	37	0100	152	100
10	0100	191	25	38	0100	151	100
11	0100	190	25	39	0100	150	100
12	0100	189	25	40	0100	149	100
13	0100	188	25	41	0100	148	100
14	0100	187	25	42	0100	147	100
15	0100	186	25	43	0100	146	100
16	0100	185	25	44	0100	145	100
17	0100	184	25	45	0100	144	100
18	0100	183	25	46	0100	143	100
19	0100	182	25	47	0100	142	100
20	0100	181	25	48	0100	141	100

ステップ3 生徒のよいところを見いだす

「生徒ピックアップ」には、技能別の成績上位者や、スコアを大きく伸ばした生徒のランキングが表示され、技能別の生徒の強みや伸びた生徒を確認できる。ぜひ大勢の生徒に光を当て、次へのやる気につなげたい。

▶頑張った生徒ピックアップ

ステップ4 課題を把握して、付属学習教材に取り組ませる

付属学習教材では、技能別に力を伸ばすことができる。まずは、個人成績票で『STEP UP ノート』の取り組みページを確認した後、グレードごとに多様な学習法で各技能を学べる「スキルトレーニング」や、GTECの出題形式に慣れるための演習「スキルプラクティス」に取り組む。

READING 結果 GTEC for STUDENTS

1 あなたのスコアとグレード
あなたのスコアとグレードを確認しよう

スコア	189	178.5	167
グレード	5	4	4
偏差値	105	105	104

2 Readingスコア 成績推移
あなたの読解力の伸びと今後の目標を確認しよう

3 Part別結果
あなたのReading力の強弱と今後の目標を確認しよう

Part	スコア	偏差値
Part A 読解問題	100	100
Part B 読解問題	100	100
Part C 読解問題	100	100

4 ReadingスキルUPアドバイス
あなたのSTEP UP ノートの取り組みページを確認しよう

該当ページを確認

個人成績票

STEP UP ノート (スキルトレーニング)

段落と段落のつながりを押さえよう!

読解問題が苦手な生徒には、各段落の内容に注目してほしい。ここでは、段落のつながりや考えを整理しよう。

本文内容: Siamese fighting fish (暹羅闘魚) について説明する文章。彼らは熱帯の池や水たまりに生息し、非常に美しい魚である。彼らは互いを攻撃し、時には死に至らしめる。彼らは非常に賢い魚で、自分の縄張りを守る能力がある。

問題: 本文の内容に基づいて、正しい答えを選びなさい。

1. Another interesting thing about Siamese fighting fish is their choice of places to live. They prefer living in shallow warm waters, such as ponds and rice fields where the water temperature can often reach 25 degrees or higher. But ponds and rice fields sometimes have less air than other clear waters. They do this by using a special organ in their heads, which helps them to take oxygen directly from the air.

2. Siamese fighting fish are known for fighting. Though there are many kinds of fish that attack other kinds of fish, it is unusual for fish to fight with fish of their own kind—but that is exactly what Siamese fighting fish do!

3. Siamese fighting fish attack other fish because of their extremely hostile nature. It makes them attack even their own kind. This comes from their territoriality. They are so territorial that they are always keeping a watchful eye on the boundaries of their territory. And they do not allow not only other kinds of fish, but also fish of their own kind to move even slightly into their area. Once an "invader" invades, they will not attacking until the invader gets completely out of their territory. It sometimes causes the fighting enemy to get seriously injured.

4. Though scientists have learned many things about the characteristics of Siamese fighting fish, there are still many mysteries about these unique fish that have yet to be solved.

問題: 本文の内容に基づいて、正しい答えを選びなさい。

1. (A) Another interesting thing about Siamese fighting fish is their choice of places to live. They prefer living in shallow warm waters, such as ponds and rice fields where the water temperature can often reach 25 degrees or higher. But ponds and rice fields sometimes have less air than other clear waters. They do this by using a special organ in their heads, which helps them to take oxygen directly from the air. (B) Siamese fighting fish are known for fighting. Though there are many kinds of fish that attack other kinds of fish, it is unusual for fish to fight with fish of their own kind—but that is exactly what Siamese fighting fish do! (C) Siamese fighting fish attack other fish because of their extremely hostile nature. It makes them attack even their own kind. This comes from their territoriality. They are so territorial that they are always keeping a watchful eye on the boundaries of their territory. And they do not allow not only other kinds of fish, but also fish of their own kind to move even slightly into their area. Once an "invader" invades, they will not attacking until the invader gets completely out of their territory. It sometimes causes the fighting enemy to get seriously injured. (D) Though scientists have learned many things about the characteristics of Siamese fighting fish, there are still many mysteries about these unique fish that have yet to be solved.

STEP UP ノート (スキルトレーニング)

STEP UP ノート (スキルプラクティス)

スキルプラクティス Reading G1-C2 G3-C4 G5-C6 読解 15分

Part A 読解・語法問題

1. What's your favorite? I like something interesting.

(A) music (B) food (C) movie (D) sport

2. The computer over there looks really slow. How _____ is it?

(A) fast (B) long (C) old (D) old

3. Can I use your dictionary? I _____ mine at home.

(A) brought (B) brought (C) read (D) made

4. It was a _____ day without clouds in the sky, so I went on a picnic.

(A) sunny (B) rainy (C) snowy (D) cloudy

『STEP UP ノート』と付属のCD

神奈川県 湘南白百合学園中学校・高等学校

湘南白百合学園中学校・高等学校
プロフィール

1938(昭和13)年に乃木高等女学校(旧制)として開校。キリスト教(カトリック)の精神に基づいて女子教育を行う中高一貫校。

基本情報 私立、女子校、普通科

規模 1学年約180人(中学校)、165人(高校)

主な進路 国公立大学は、筑波大学1人、東京大学2人、東京外国語大学2人、一橋大学1人、横浜市立大学3人など11人(2017年度入試/現役のみ)

GTECの結果を踏まえて、
中1から段階的な指導を行うGTECの結果を基に、
ライティングに力を入れる

同校では、世界で活動できる人材を育成することを目標に、英語教育に力を入れている。全学年でオール・イングリッシュによるコミュニケーション活動に取り組むなど、英語4技能をバランスよく伸ばすことを重視。また、「GTEC for STUDENTS」を中学1年生から高校2年生まで全員が受検して、英語の総合的なコミュニケーション能力がどの程度定着しているかを定期的に測っている。

これまではGTECにおけるライティングのスコアが伸び悩む学年が多く、また高校1・2年生が受検する「GTEC Speaking Test」では、自分の考えを論理的に整理して伝えることが苦手な生徒が少なくなかった。こうした課題を、同校では英語による表

現活動につまずいていと捉え、英語をアウトプットする練習を今まで以上にしっかりと、段階的に積ませる必要性を感じた。そこで、同校ではまず、中学校段階で英作文の指導に力を入れるようにした。

文章の型の定着を
初期指導の柱に位置づける

中学1・2年生で重視するのが、他者に伝わりやすい文章を書くために、起承転結などの文章の型をしっかりと定着させることだ。意見を述べてから理由を説明するなど、どのように書けばよいのかを具体的に示しながら、「長期休業中にしたいこと」など、生徒にとって身近なテーマの課題英作文を多く課した。また、自分の考えを英文で表す面白さに気づいてほしいとの思いから、文法の正確さよりも、文章量をたくさん書くことを意識するようにならせた。こうして、6年間をかけて生徒のアウトプット力を伸ばしていく基礎を、初期指導で固めた。

課題英作文は、ネイティブの教師が添削。文法事項やスペリングに目が行きがちな日本人教員に対して、ネイティブの教師は構成や論理の展開など、あくまでも内容中心に添削してい

た。その様子を見ることで、日本人教員は、自分たちの指導を見直すきっかけになったという。

他教科との連携や課外活動で
英語の表現力を多角的に育成

中学3年生からは、英語を用いた多彩な表現活動に注力している。例えば、中学3年生では、「総合的な学習の時間」に、環境問題に関する英語と理科の教科横断型学習に取り組み。学校近くを流れる川の水質調査など、生徒がテーマを自由に決めて1学期から夏休みにかけて実験や観察を行い、2学期初めに日本語のレポートを書く。それを、3学期が終わるまでに200〜300語ほどの英文に要約する。生徒は、日本語の内容をいかに縮約し、意味の通る英文にまとめるかを考えることになり、文章の型に沿って英文を書くという、中学1・2年生で身につけたスキルを応用できるようにした。

これらの取り組みの結果、GTECのスコアが上昇。特に高校2年生では、課題だったライティングのスコアが、平均でグレード5(海外の高校の授業に参加できるレベル)にまで向上した。同校では今後も発信力を高める取り組みに力を入れていく考えだ。

新潟県立六日町高等学校

GTECのねらいや意義を共有し、生徒の意欲を高める

高1→高3でリーディングとリスニングが大幅に伸びる

同校では、全学年で夏と冬の年2回、「GTEC for STUDENTS」を受検して、生徒の学力の確認や指導の振り返りに活用している。その中でも、2016年3月に卒業した生徒のスコアの伸びが著しく、特にリーディングとリスニングが2年間でそれぞれ50点前後と大幅に伸びていた。

スコアが大幅に伸びた要因は様々なところにあるが、同校の英語指導の特徴としてまず挙げられるのが、小規模の話す活動を頻繁に行うなど、アウトプット活動を日常的に取り入れていたことだ。他のアウトプット活動としては、学期に2〜3回、パフォーマンステストを実施したり、継続的なライティングを行ったりしている。

また、インプット活動にも力を入

ている。リーディングは、1文ずつ和訳するようなこととはせず、概要理解を中心に展開し、その後、表現の確認を行い、Q & Aなどで理解を深めていくというスタイルを取っている。

文法事項の詳細などは、生徒からのニーズが高まり、生徒たちが正確に知りたいと思ったときに詳細理解へと進むようにしている。生徒が「正しく知りたい、書きたい」と思ったときにそれを与えると学習効果が高まるという考えからだ。

リスニングについては、朝学習の時間を活用して週2回×10分、リスニング教材を使って音声を聞いたり（音声ミニテストあり）、Teacher Talkや教科書を用いた活動を行ったりして、力を伸ばしている。

学年便りでGTEC受検に前向きに取り組む姿勢を養う

同校の取り組みのもう1つの特徴は、GTECの受検前後に毎回、生徒

図 学年便り

六高1学年便り

第16号 2013/7/5

GTEC特集

GTEC for STUDENTS を実施します

来週7月11日(木)にGTEC for Studentsという検定試験を実施します。一体どんな試験なのか知らない人がほとんどだと思うので説明します。

1. GTEC for STUDENTSとは？

進研模試と同じく、ベネッセコーポレーションが実施する中高生対象の英語能力検定試験です。今の3年生が1年生の時から、年に2回(7月と12月)に実施しています。自分の英語力がどの程度しているか、どの分野が強く、どの分野が弱いのか、などを総合的に把握できる試験です。

今回君たちに受けてもらうのはGTEC for StudentsのBasicのテストです。中学校から高校1年のこのまでに、どの程度の英語力が身に付いたかを測定します。

2. 英語学習の目標設定の場として

毎日の授業や小テスト、朝学習などを通して、皆さんの英語力は確実に向上しています。4月からの3ヶ月間だけでも、覚えたり読んだりした英文量はかなりになります。しかし、定期テストや模試(来週の進研模試や全統模試など)では、受験する度に難易度が変化し、平均点も変わります。がんばって勉強したつもりでも、目標点に到達しなかったり、偏差値が上がらなかつたりと、なかなか皆さんのがんばりが目に見える形で現れません。

GTECは、毎回同じ難易度の試験を年2回受験します。普段ががんばっている人は、自然とスコアが伸びていくテストです。他の人と比べるのではなく、過去の自分と比べるテストです。

英語科では、1学年が終了するまでに、GTECでトータル380点(高校英語初級レベル)に全員が到達することを目標にしています。

学年便りでは、GTECの受検前にはその意義や目標を、受検後には結果の概要を伝え、生徒がテストを自分で活用できるようにしている。

*学校提供資料をそのまま掲載。

へ向けて発信をしていることだ。例えば、1年生の最初の受検時には、生徒向けの学年便りで、GTECとはどのようなテストなのかを解説(図)。さらに、受検後には、GTECの結果をどのように捉え、どのように活用すべきかをアドバイスしている。

活用のポイントは、「自分の現在の英語力を測り、自分の強みや弱点を正確に把握することが大切」「他人と比較するのではなく、過去の自分と比較し、伸びを確認することが大切」の2点だ。これらのメッセージを繰り返して生徒に伝えることで、英語学習に前向きに取り組む姿勢を育んでいる。結果に一喜一憂するのではなく、こうした姿勢を身につけられるよう働きかけたことも、同校の生徒が継続的に英語力を伸ばした要因だったと言える。



新潟県立六日町高等学校プロフィール

1924(大正13)年に新潟県立六日町中学校(旧制)として開校。文武両道を目指し、全校で通年、毎日10分間の朝学習・朝読書や、冬季のアルペンスキーなど特色のある取り組みを行う。

基本情報 公立、共学、普通科

規模 1学年約240人

主な進路 国公立大学15%、私立大学48%、短期大学6%、専門学校26%(2017年度入試)

使える英語力を楽しく試せる、小・中学生のための4技能テスト

GTEC Junior

2018年度の新学習指導要領の先行実施、2020～21年度の全面実施を見据えて、いち早く小・中学生の英語の4技能を測定するテストをご用意しました。年齢に合わせた設計で、小学生には英語でできることの認めや楽しさの実感を、中学生には4技能をバランスよく学んでいるかを継続して確認できることを重視しています。



実施いただいた先生・生徒の皆様からもご好評いただいています。



各児童の現状の英語力が各技能別に詳しくわかったので、今後の目標設定に役立ちました。

紙のテストと違って、スピーキングやリスニングなどいろいろな力を測れて楽しかったです！



特長 1

英語を使う体験で学習意欲向上の機会に

タブレットを使ったリアルな場面設定の実践的な出題で、英語を使うことを楽しむことができるテストです。「英語を使った」実感が学習意欲につながります。
*必要機器はすべて貸し出し。ネットワーク環境は不要です。



特長 2

指導に活用できる充実したフィードバック

GTEC Junior 独自のCAN-DO statements を受検結果と併せてご確認いただけます。クラス単位での結果が分かる帳票や児童・生徒へのスコアレポートを基に、今後の授業にお役立ていただけます。



教師用帳票 受検者用スコアレポート

特長 3

小・中学生から社会人まで、継続して力の伸びを測定

GTEC シリーズはスコア型の絶対評価なので、毎年実施することで受検者の英語力の伸びを確認できます。今回新たに登場した GTEC Junior をご利用いただくことで、小・中学校の連携にもお役立ていただけます。

小5	小6	中1	中2	中3
				GTEC for STUDENTS Core
			Junior Plus	
		Junior 2		
Junior 1				

GTEC Junior の特長や価格など、個別にご案内します。お気軽にお問い合わせください。

TEL 0120-8888-44

通話料 無料

*受付時間 9:00～17:00 (土・日・祝日・お盆期間・年末年始を除く)
*一部のIP電話からは086-235-2257へおかけください (ただし通話料がかかります)。

担当者がお伺いします。ぜひ、解決したい課題やご要望をお聞かせください。

〈個人情報の利用目的・取り扱いについて〉

GTEC Junior (以下「本サービス」といいます) では、各採択校における本サービスの利用に際してご提供いただく生徒様の個人情報を、本サービス提供の目的で利用いたします。また、ご提供いただいた情報を、個人が特定できない形式に匿名化し、弊社が保有する他の情報と併せて統計処理したうえで、次年度以降の各種進路進学資料等における基礎資料やデータとして利用することがあります。これら基礎資料やデータには、個人を特定できる情報は一切掲載されませんので、ご安心ください。なお、個人情報は学校様および生徒様の意思に基づきご提供いただくものとしますが、不足がある場合弊社からの商品・サービスの提供が行えないことがありますので、あらかじめご了承ください。弊社は本サービスの目的の範囲内で、個人情報の取り扱いの全部または一部を、自らの責任と負担において第三者に業務委託することがありますが、その場合には、当該第三者との間において委託契約書を交わし適切な管理をいたします。このような業務委託および法令の定めによる場合を除き、ご提供いただいた個人情報を、事前の同意なく第三者に提供することは一切ありません。成績推移データの提供のために一定期間生徒様の情報を保管いたしますが、その情報の取り扱いにつきましては必要かつ適切な措置を講じて万全の配慮を行います。

株式会社ベネッセコーポレーション CPO (個人情報保護最高責任者)

〈お問い合わせ先〉

個人情報の取り扱いおよび管理についてのお問い合わせは、個人情報お問い合わせ窓口 (0120-9244721、通話料無料、年末年始を除く、9時～21時) にて承ります。全国の先生方からのテスト・教材等のお問い合わせは、お客様センター (0120-8888-44※、通話料無料、土・日・祝日・お盆期間・年末年始を除く、9時～17時) にて承ります。*一部のIP電話からは086-235-2257へおかけください (ただし通話料がかかります)。
〒700-8686 岡山県岡山市北区南方 3-7-17

お客様 サービスセンター

フリーダイヤル 0120-350455

受付時間 月～金 8:00～19:00 / 土 8:00～17:00 (祝日、年末・年始を除く)
株式会社ベネッセコーポレーション岡山本社 〒700-8686 岡山市北区南方 3-7-17

7GVOLA